

此目的ヲ達スルモノハ良好ナル射撃指揮ト射撃軍紀トニシテ速度ヲ過度ニ獎勵スル如キ

一 戰闘力ヲ濫費スルモノトス

三 射撃ノ指揮ヲ勉メテ長ク確實ニ持續シ銃器ノ眞價ヲ發揮スル爲指揮官ハ部下ヲ手裡ニ掌握スルヲ要ス

目標ヲ指示スルニ方リ比隣部隊ノ目標トノ間ニ空隙ヲ存セザルヲ可トス蓋シ對戦スル敵ノ一部ト雖我射撃ノ制壓ヲ免レシメザルコト最モ緊要ナレバナリ

一 距離ヲ確實ニ判定スルキ時間又ハ機會ナキトキハ其近傍ニ於テ射撃スル砲兵或ハ歩兵ア

四 散兵線ノ射撃ハ各個射撃ヲ用フルヲ常トス蓋シ最大ノ効力ヲ得ルハ此射撃ニ若クモノ

ナニ是レ各兵卒ハ精密ニ照準シ好機會ヲ待チテ發射スルコトヲ得レバナリ

並射撃ノ速度日標ノ景況 彈藥ノ現狀 氣象及射手ノ精神ト體力ノ狀態トニ由リ自ラ

緩急ヲ生ズ 指揮官不適當ト認ムルトキハ之ヲ矯正シ又ハ狀況ニ應ジテ其速ヲ

緩ニシ及之ヲ復舊セシムル爲「徐ニ」或ハ「活潑ニ」ノ注意ヲ下スベシ

急射撃ハ如何ナル狀態ニ在リテモ効力ヲ期シ得ベキ至近ノ距離ニ於テ固定照尺ヲ用ヒテ

施行スルモノニシテ其時機左ノ如シ但シ稀ニ中距離以內ニ於テモ特ニ有利ナル目標ニ對

シ短時間ニ偉大ナル効力ヲ收メ得ベキ場合ニ限リ少時間此射撃ヲ應用スルコトアリ

突撃前ニ於ケル最後ノ射撃又ハ敵ノ突撃ヲ擊攘セントスルトキ

堡壘 村落 森林等ノ戰闘ニ於テ俄然敵ト衝突セシトキ

敵ヲ驅逐シ直ニ追撃射撃ヲ行フトキ

一 齊射撃ニ軍隊ヲ掌握シ時トシテハ彈着點ヲ認識シ照尺ノ選定ヲ容易ナラシムル利アリ

然レトモ戰闘ノ喧嘩ナルニ方リテハ密集スル小隊ト雖尙ホ聲音ヲ達セシムルコト難ク

散開セル小隊ニ於テハ二層困難ナリトス故ニ一齊射撃ハ効有ナル敵ノ射撃ヲ被ラザル時

機ニノミ應用シ得ルニ過ぎザルモノトス

火線ヨリ直接ニ觀測スルコト能ハザルトキハ適宜ノ位置ニ特別ノ觀測者ヲ配置スルヲ良トス

六 射撃軍紀トハ射撃指揮ヲ完全ナラシムル爲火戰中射撃ニ關スル戰鬪動作ト命令トヲ確實ニ實行シ銃ノ使用法ヲ嚴守スルヲ謂フモノニシテ特ニ要求スベキ件左ノ如シ

一 敵火ノ下ニ在リテ沈着堅忍シ命中効力ヲ増大スル爲地形ノ利用及發射ノ時機ト方法ト

二 注意多尙ニ其指揮官及敵兵ニ留意シテ目標消滅スルカ或ハ指揮官ノ小笛若クハ他ノ方法ヨリ射撃停止ノ命令アルトキハ速ニ射撃ヲ停止シ得ベク又假令指揮官ノ射撃指揮行ハレザル場合ニ於テモ各兵卒ノ思慮ト判斷トニ基キ依然射撃ノ効力ヲ維持シ得ルコト

故ニ射撃指揮ノ行ハレザル戰況ニ於テ各兵卒ヲシテ適當ニ處置シ得ル如ク教育スルコトハ特ニ緊要ナリトス

七 各兵卒ヲシテ其長ノ指揮及隣兵ノ景況ニ應ジ散兵線上ニ於テ射撃ノ爲速ニ最良ノ位置ニ選定スルニ熟達セシムルヲ要ス但シ一地ニ於テ左右ニ移動スルハ敵兵ノ注意ヲ喚起スルヲ以テ成ル可ク之ヲ避クベシ

何等ノ時ト雖 散兵ハ常ニ命ゼラレタル照尺ヲ最モ精確ニ裝置スルヲ要ス

各個射撃ニ際シ目標ノ幅員ヲ示サレタルトキハ多クハ先ヅ正對セル部ニ就キ若クハ與ヘラレタル範圍ニ於テ最モ明瞭ナル部分ニ射撃ヲ指向シ而シテ照準點ハ通常其下際トス

八 射撃ノ號令ハ第二節其二ノ七ノ三及四ニ準ズ但シ射撃姿勢ヲ示スコトナシ分隊長ハ要スレバ其號令ヲ復令スベシ

目標ヲ指示スルニハ兵卒ニ誤解ナカラシムルコトヲ勉メ且ツ簡明ナル言詞ヲ用フベシ

九 俄ニ射撃ヲ中止スルノ必要ニ際シ他ニ手段ナキトキ始メテ小笛ヲ用フルコトヲ得

(四) 集合及併合

一 散兵ヲ集合(併合)スルニハ刀ヲ擧ゲ(併合)ニハ隊形ヲ示シタル後(左ノ號令ヲ下ス) 集レ(併セ)

散兵ハ駆歩ヲ以テ小隊長ノ許ニ集リ番號ノ順序ヲ以テ橫隊(番號ノ順序ニ拘ラズ示サレタル隊形)トナリ小隊長停止シアレバ停止シ行進シアレバ續テ行進ス

第四章 劍術教範摘要

第一節 總則

其一 一般ノ通則

一 劍術ノ目的ハ白兵ノ使用ニ習熟シ且體力殊ニ氣力ヲ養成シ攻撃精神ヲ發揚スルニ在リ

二 劍術ヲ分チ軍刀術及銃劍術トス

三 劍術ノ演習ハ左ノ區分ニ從ヒテ之ヲ行フ但シ其ノ他規定アルモノハ之ニ據ルベキモノトス

其一 軍刀術 各兵科士官准士官及帶刀本分ノ下士兵卒

其二 銃劍術 歩兵、要塞砲兵、工兵科士官准士官下士及兵卒

四 劍術ノ進歩ハニニ教官ノ技能ニ照ルテ以テ各級隊長ハ銳意教育ヲ訓練シテ之ニ精熟セシムルコトヲ努ムベシ

五 劍術ハ各個ニ教育スベキモノトス之ガ爲習技者ノ性質ト體格トヲ審ニシ漸次姿勢ノ正確動作ノ確實ト快速及氣勢ノ充實ヲ得セシムル如ク綿密ニ意ヲ用キテ教授スルヲ要ス

六 最初ノ教授不完全ナルトキハ不良ノ姿勢技癖ヲ生ジ遂ニ固著シテ除去シ難キモノトス習技者ヲシテ自ら進ンデ劍術ヲ行フノ念

ヲ喚起セシムルハ劍術ヲ進歩セシムルニ有
効ナルモノトス之ガ爲メ教官ハ劍術ノ目的ト

効果トヲ知ラシメ懇切ニ教授スルヲ要ス
七 劍術ノ演習ハ常ニ實戰ニ鑑ミ精神ヲ爽快

ニシ勇壯果敢敵ヲ壓伏スルノ氣力ヲ以テ之
ヲ行スベシ然レドモ嚴ニ規律ヲ守リ禮讓ヲ
重スルヲ要ス

八 劍術ノ演習ニハ竹刀或ハ木銃ヲ用キ且防
具ヲ着用スベキモノトス

九 前項ノ外又時々軍刀若クハ軍用銃ヲ用キ
且武裝ヲ爲サシメ敵手ヲ假想シ實敵ニ對ス
ル如ク擊突或ハ防拂返擊(突)等ヲ行ハシメ
以テ軍刀軍用銃使用ノ興味ヲ得セシムベ

十二 教官ハ演習ヲ始ムルニ先ダテ演習用具
ノ損否ヲ檢シ且其ノ著裝ニ注意スベシ

十三 基本及試合演習ノ前後ニ於テハ互ニ嚴
肅ニ敬禮ヲ行フベキモノトス
劍術ニ於ケル敬禮ハ相對シテ姿勢ヲ正シ互
ニ其ノ眼ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾
クモノトス

其二 基本演習ノ通則
一 基本動作ハ劍術ノ基礎ニシテ最精確ニ
教授スルヲ要ス

二 基本演習ハ最初其ノ動作ヲ緩徐ニシテ
能ク其ノ要領ヲ了得セシメ習熟スルニ隨ヒ
漸次確實快捷ニ施行スベシ

十 基本動作ニ習熟スルニ至リ假標ヲ設置シ
遠距離ヨリ各種ノ歩度ニテ前進シ擊突ノ動

作ヲ行フハ頗ル價値アリトス故ニ時機ヲ得
ル毎ニ之ヲ行ハシムベシ又單ニ敵手ヲ假想
シ軍刀軍用銃ヲ用キテ以上ノ演習ヲ行ハシ
ムベシ

十一 夜間或ハ不齊地ニ於テ又勞動或ハ激烈
ナル運動ノ後若クハ異種白兵ニ對シ劍術ノ
演習ヲ行フハ自信力ヲ増進セシムルノ利益
アルモノトス然レドモ夜間ニ於ケル試合ハ
殊ニ危險ノ虞アルヲ以テ特ニ注意シテ施行
スルヲ要ス

三 基本演習ハ同一ノ斬撃、刺突、防拂、返
擊(突)等ヲ數回連續シテ之ヲ行ハシムベシ
此ノ時ニ方リ教官ハ習技者ノ氣勢ヲ誘致シ
且次ノ動作ニ自由ヲ得セシムル爲メ習技者
突或ハ返擊(突)ヲ行フ有ニ其ノ機ニ應ジテ
適當ニ退却スルヲ要ス

四 基本動作ヲ全部習得セシメタル後ト雖尙
絶エズ之ヲ復習シ其ノ習熟ヲ圖ルト共ニ姿
勢技癖等ヲ矯正スルコト必要ナリ故ニ試合
ノ前後ニ於テ若干ノ基本動作ヲ施行スベシ

五 演習ヲ始ムルトキ構備ノ姿勢ヲ取ルニハ
通常四五歩ノ距離ニ於テス此ノ規則ハ試合
演習ニモ亦適用ス

六 基本演習ハ一動作毎ニ竹刀或ハ木銃ヲ交又シテ行フモノトス

七 教範ニ掲グル號令ハ必ず適用スベキモノ

ニシテ常ニ明瞭活潑ニ發唱スルヲ要ス然レ

ドモ同一ノ基本動作ヲ數回連續シテ行ハシ

ムルトキハ次回ヨリ規定ノ號令ニ代フルニ

同ジラ以テスルコトヲ得

其三 試合演習ノ通則

一 試合ハ劍術ノ目的ヲ達成スル主要ノ演習

ニシテ殊ニ其ノ習熟ヲ圖ルヲ要ス

二 試合演習ヲ教習試合及互格試合ノ二種ニ

分テ教習試合ハ基本動作ヲ習得セシメタル

後施行シ互格試合ハ教習試合ニ依リ略々使

用スルモノトス

功ヲ奏セザルモ尙敵手ヲ壓伏スルノ氣力ヲ

以テ再ビ發突スルヲ要ス縱ヒ擊突功ヲ奏シ

タリト信ズルモ決シテ氣勢ヲ弛ムベカラズ

是レ後ノ變ニ應センガ爲ナリ

總テ防拂シタルトキハ直ニ返擊(突)ヲ行

フベシ若シ防拂スルノ餘裕ナキトキハ寧ロ己

ヲ捨テテ發突ヲ行フベシ蓋シ其ノ氣勢ノ如

何ニ依リテ敵手ヲ躊躇セシメ反テ我が發突

ノ功ヲ奏スレバナリ

十一 互格試合ハ教官之ガ勝敗ヲ審判スルモ

ノトス而シテ審判ノ適否ハ劍術ノ効果ニ至

大ノ關係ヲ有スルヲ以テ注意ヲ周密ニシ適

實ニ劍術ノ目的ヲ達スル如クスルヲ要ス

○ 五

七 互格試合ニ當リ教官ハ機ヲ失セズ其ノ各

時機ニ於ケル相互ノ意志動作ノ經過ヲ説明

シ乘ズベキ機會過失技癖等ヲ懇篤ニ教示ス

ベシ

八 敵ニ先ヅルハ勝ヲ制スルノ要訣ナリ故ニ

敵手ノ意志動作ヲ察知シ其ノ乘ズベキノ機

氣失ハザルコト肝要ナリ

九 擊突ハ勇壯果敢已ヲ捨テテ施行シ若シ擊突

カニ勇氣ヲ失フモノトス

四 術ノ應用ニ慣レ判斷ノ能力ヲ得セシメタル

後施行スルモノトス

三 教習試合ハ試合ノ要領ヲ教授スル演習ニ

シテ習技者ヲシテ敵手ノ意志動作ヲ判斷シ

基本動作ヲ適實ニ應用セシメ殊ニ常ニ攻勢

ヲ取リ機先ヲ制シ果斷決行ノ氣力ヲ得セシ

ムル如ク指導スルモノトス

四 教習試合ニ於テ教官ハ習技者ニ適當ノ虛

隙又ハ機會ヲ與ヘテ之ヲ擊突セシメ或ハ習

技者ノ虛隙ヲ擊突シ之ヲ防拂シテ返擊(突)

セシメ以テ適當ニ使術ノ應用ヲ教授スルト

共ニ其ノ攻撃精神ヲ誘發スル如クスベシ

五 教習試合ハ互格試合ヲ始メタル後ト雖

モ

十二 擊突ヲ行フ際氣勢ニ伴フ自然ノ發聲ハ
願ハ價值アリトス然レドモ之ガ爲故ラニ發
聲スルヲ禁ス

十三 竹刀(木銃)ヲ放置セシモノハ敗者トシ
之ニ對スル敵手ハ擊突ヲ行ハザルモノトス
但シ其ノ瞬時ニ於ケル一回ノ擊突ハ此ノ限
ヲキアラズ

十四 試合ノ勝敗決スル毎ニ互ニ距離ヲ復シ
提刀或ハ立銃ノ姿勢ヲ取り更ニ試合ヲ始ム
ベシ

十五 規定セザル擊突部ノ外決シテ擊突スルヲ
許サズ若過チテ規定外ヲ擊突セシトキハ一
過リト謝スベシ

十六 教官試合ヲ始メシムルニハ「始メ」之ヲ
止メシムルニハ「止メ」一時中止セシムルニ
ハ「待テ」ト令ス又習技者教官ニ對シ或ハ相
互ノ試合中事故ニ依リ中止ヲ要スルトキハ
「暫ク」ト請フベシ

第二節 銃劍術基本動作

其一 刺突部

一 刺突部ヲ定ムルコト左ノ如シ(第一圖)

第一圖 刺突部



備考 本圖ハ各刺突部ノ主點ヲ示スモノ
ニシテ多少偏移スルモ妨ガナシ
喉(基本動作ニ於テハ通常刺突セザルモノ
トス)

其二 立銃

一 立銃ハ操典ノ規定ニ準ズ(第二圖)

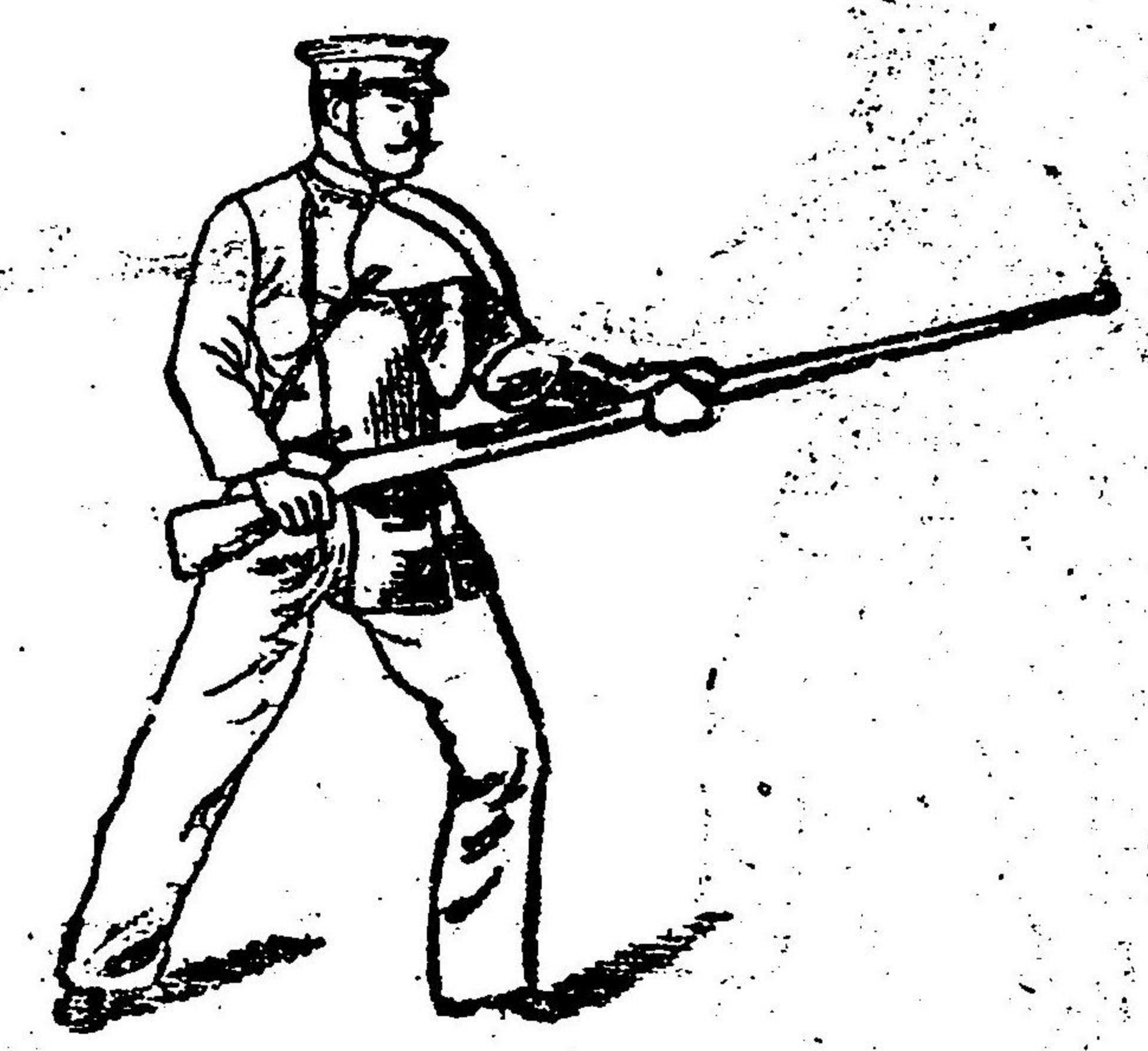
第二圖 立銃



其三 構備

一 立銃ヨリ構備(第三圖)
號令
構備

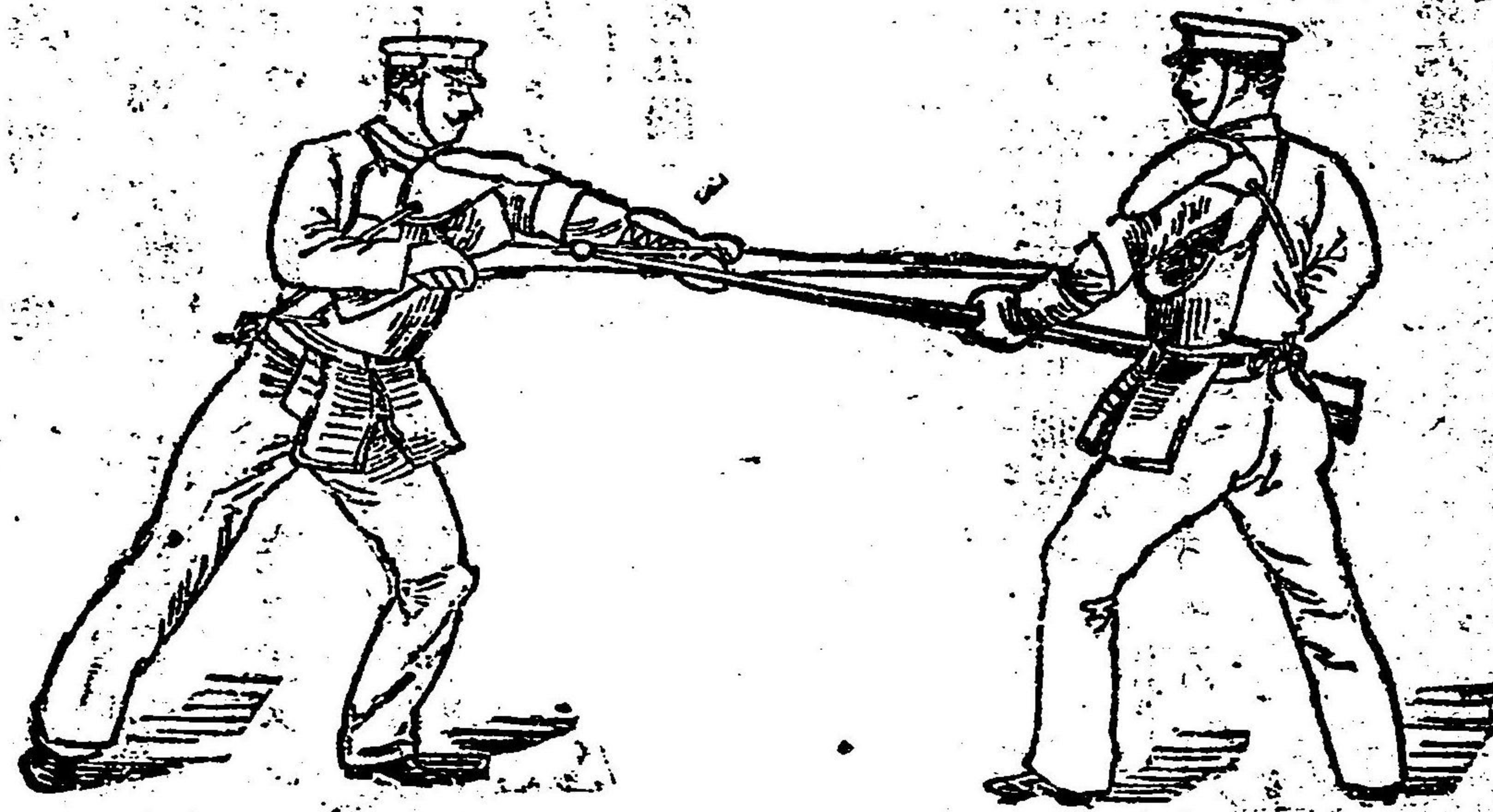
第三圖 構備



頭ヲ正面ニシタルマ、左足尖ヲ正面ニ向ク
ル如ク右ニ向キ右足ヲ約短形ニ開キ同時ニ
右手ヲ以テ銃ヲ上テ左手ニテ概テ下帯ノ下
部ヲ握リ直ニ右手ヲ下テ銃把ヲ握ル
左足ヲ前方約半歩ノ所ニ出シ體重ヲ齊シク

第五圖

直其
突一



一 劍ノ交叉ハ劍ノ尖端ヨリ約一握ノ所ニ於テ

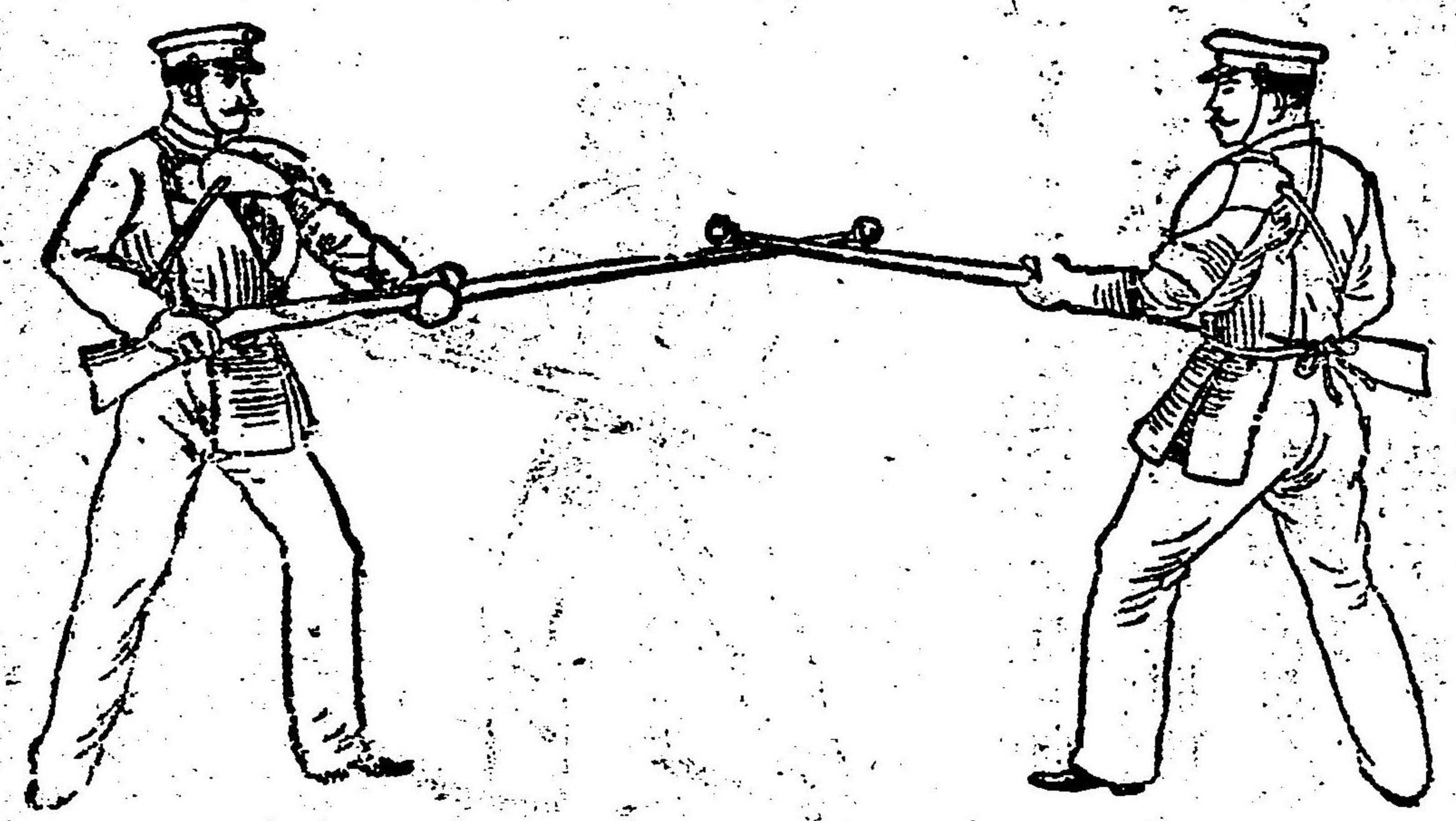
二 兩足ニ托シ僅ニ兩膝ヲ屈シ同時ニ兩手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ銃身上ニ僅ニ左方ニ傾ケ右手ヲ臍骨ノ附近ニ置キ左肘ヲ僅ニ屈シ劍尖ヲ凡ソ敵手ノ眼ニ向ケ上體ヲ真直ニシテ腰ノ上ニ落付ケ眼ヲ敵眼ニ注グ

三 構備ヨリ立銃
立テ銃ヲ以テ照尺ノ上端ヲ握リ正面ニ向キテ右腰ヲ左腰ニ引キ着ケテ立銃ノ姿勢ニ復ス

其四 前進及退却
一 前進及退却ハ軍刀術ノ前進及退却ニ準ス

第四圖

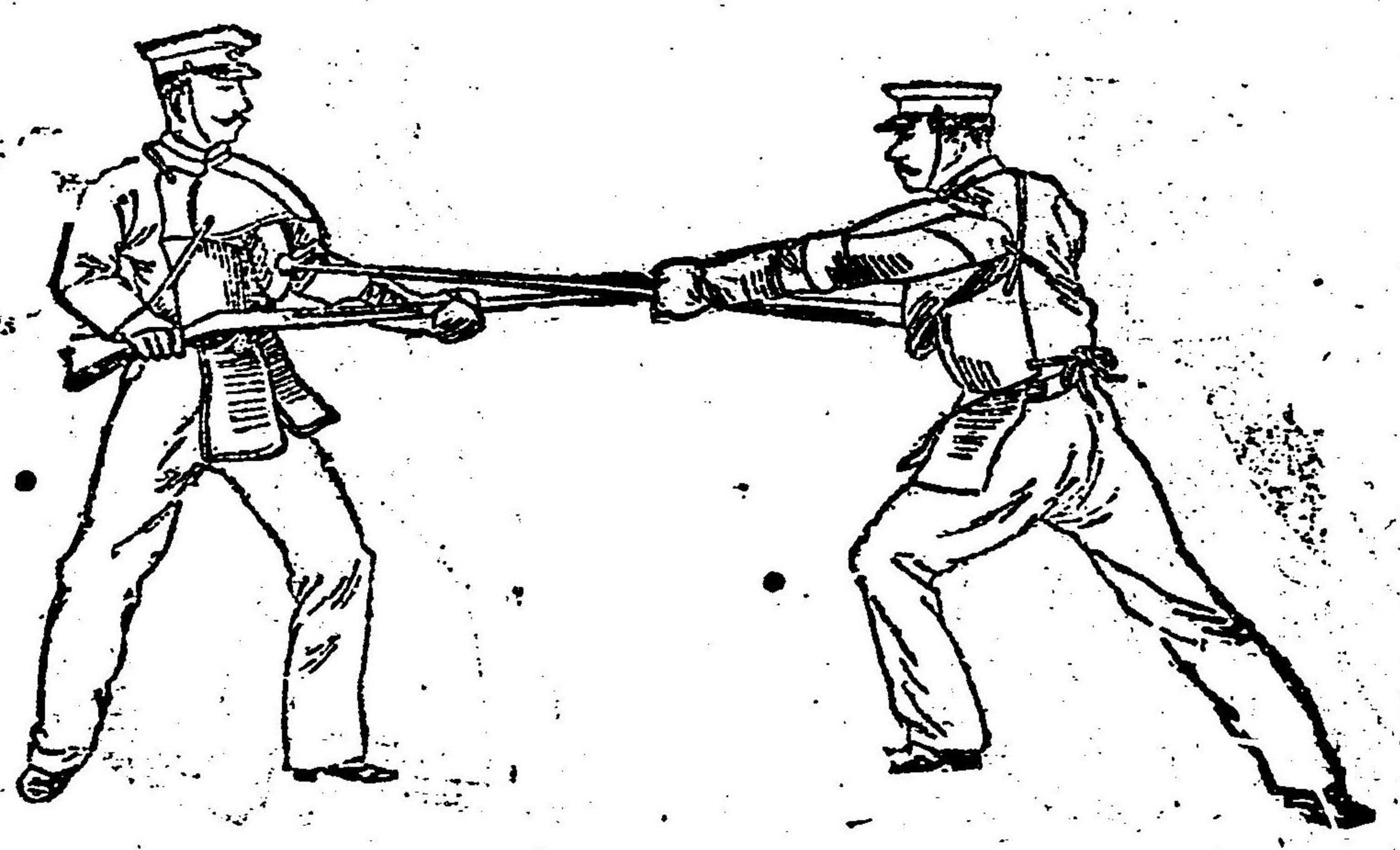
劍ノ交叉



其五 劍ノ交叉

二 六其
ナシ劍ノ右方ヲ以テスルヲ通常トス(第四圖)

二 六其



〇九

其六 刺突

一 刺突ハ構備ノ姿勢ヨリ一步快速ニ進出シ
同時ニ兩手ヲ以テ銃ヲ敏活ニ突キ出ス

二 刺突ヲ行ヒタルトキハ直ニ構備ノ姿勢ニ復スルモノトス

三 直突(第五圖)

銃令

突ケ

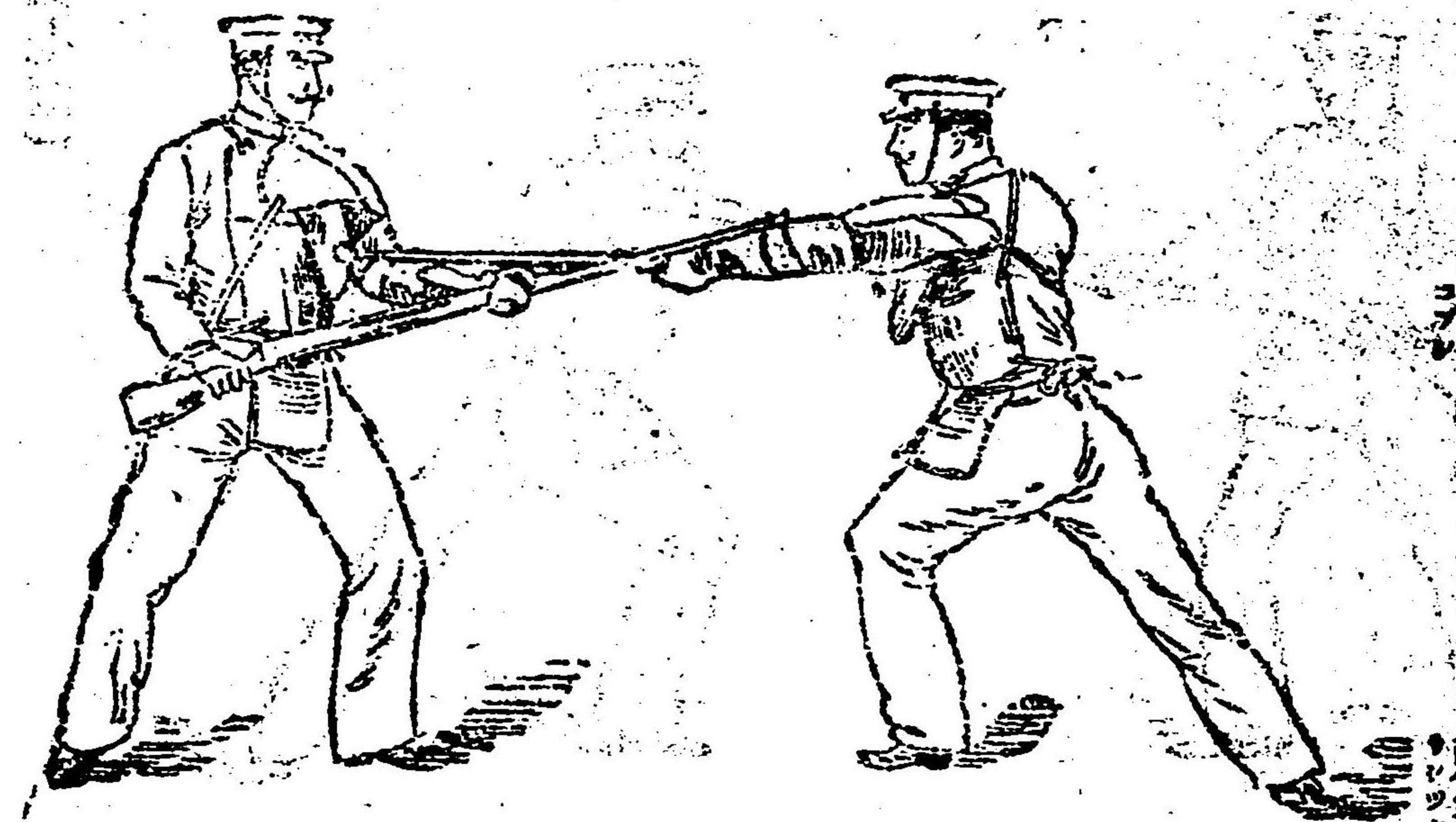
敵手ノ左拳ノ右上方ヨリ刺突ス

若劍ノ左方ヲ以テ交又スルトキハ左上方ヨリ刺突ス

四 脱突(第六圖)

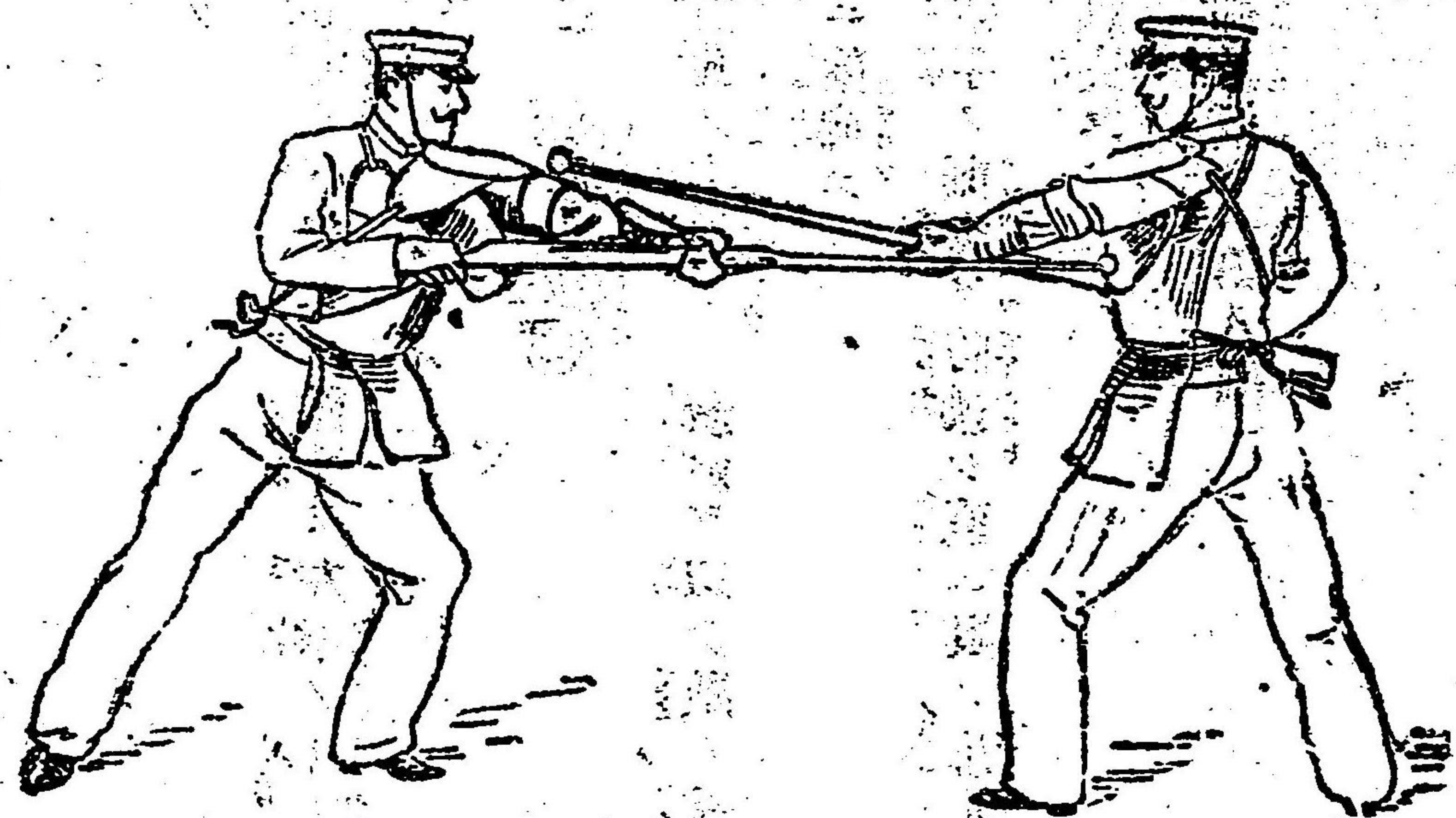
銃令

二 其



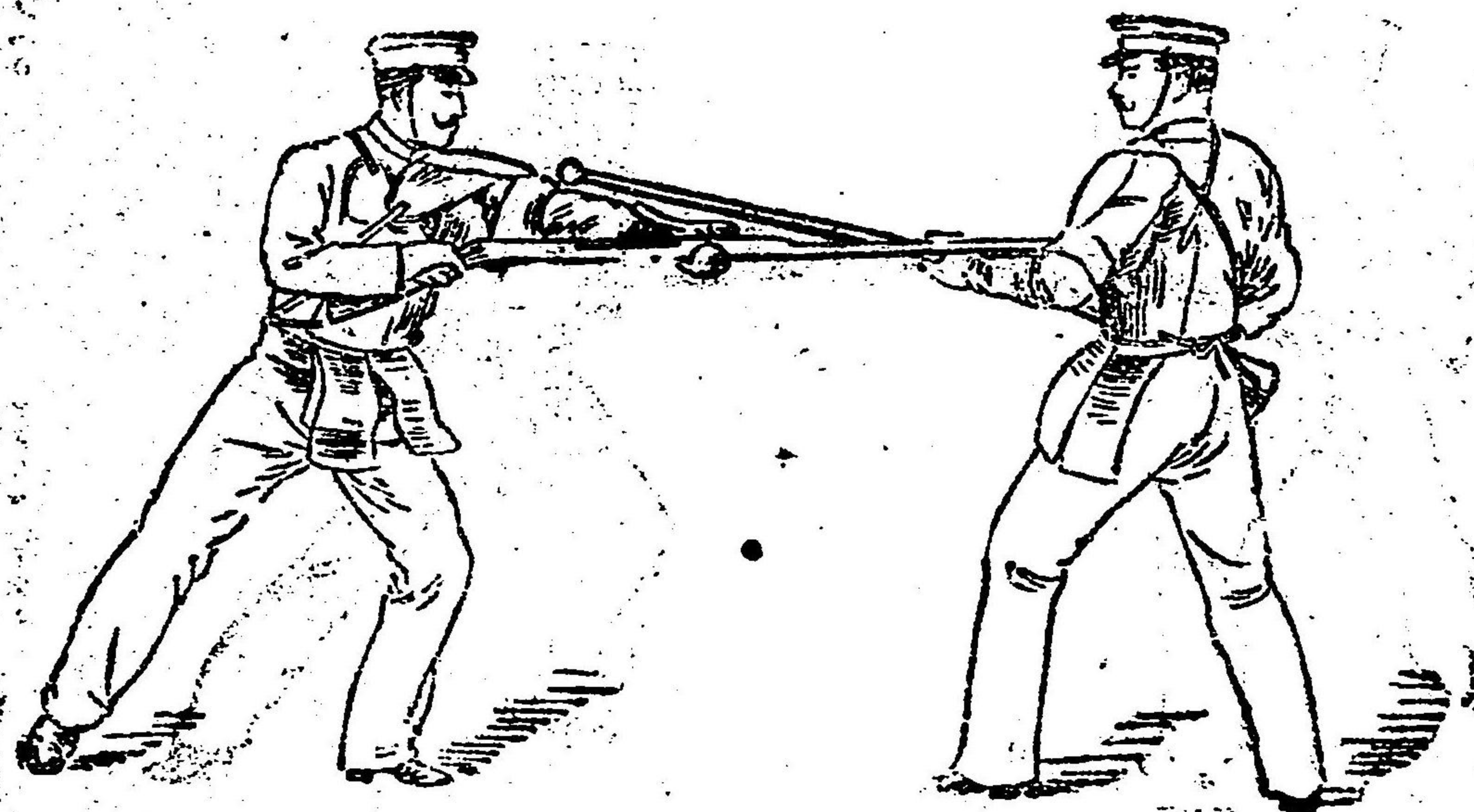
兩手ニテ劍尖ヲ下ゲ敵手ノ劍下ヲ近ク經過セシメツツ敵手ノ左拳ノ左上方ヨリ刺突ス

第七圖 其下 突一



若劍ノ左方ヲ以テ交又スルトキハ右上方ヨリ刺突ス

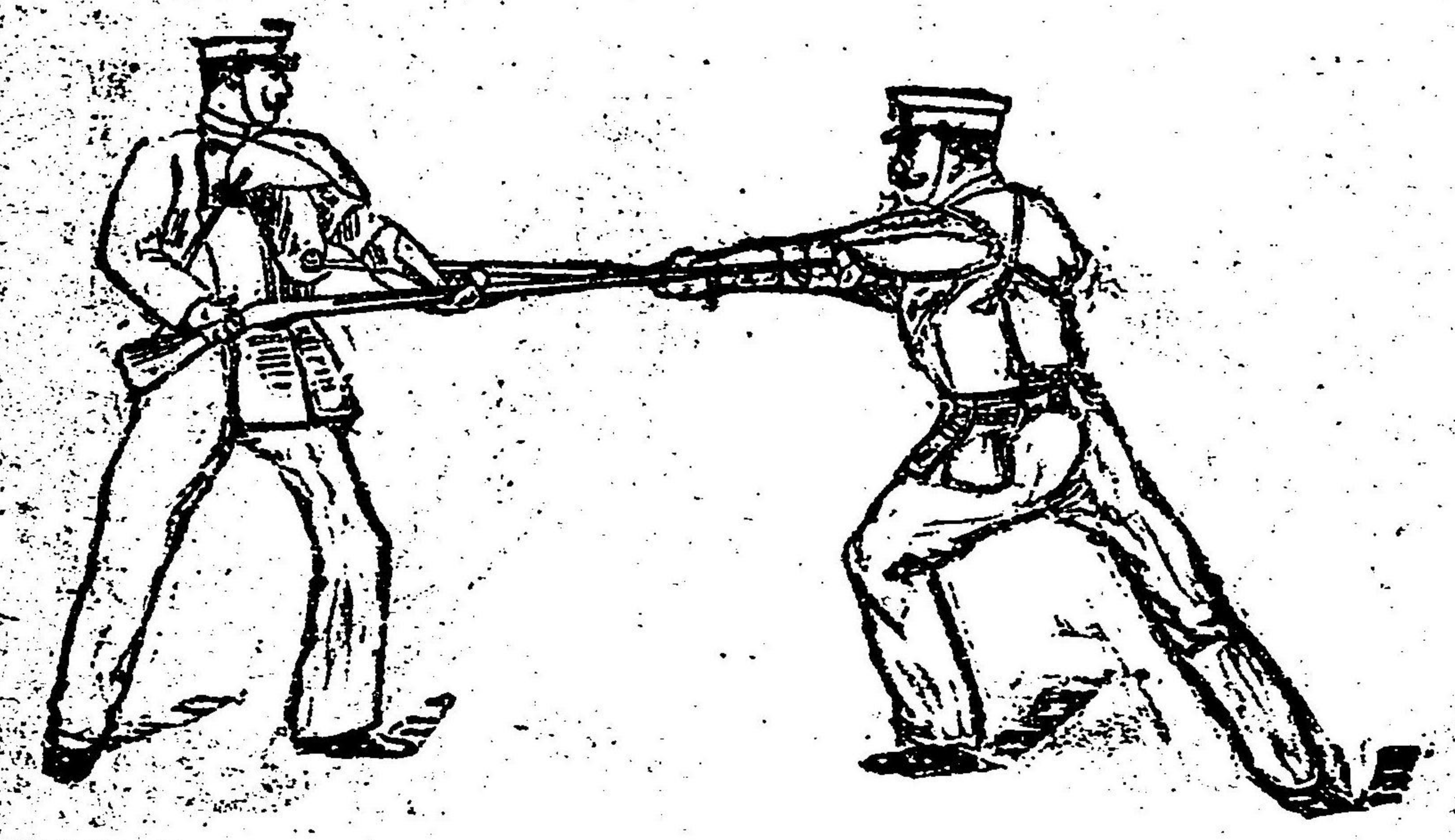
第六圖 脱其 突一



脱セ

五 下突(第七圖)

其 二



號令
下ヲ突ケ

兩手ニテ劍尖ヲ下ゲツツ敵手ノ左拳ノ下方ヨリ刺突ス

其七 防拂及返突

一 防拂ハ構備ノ姿勢ヨリ銃劍ヲ以テ敵ノ銃劍ヲ敏捷ニ擊拂ス

二 返突ハ敵手ノ刺突ヲ防拂シ直ニ其ノ虛隙ニ乘ジテ刺突ス

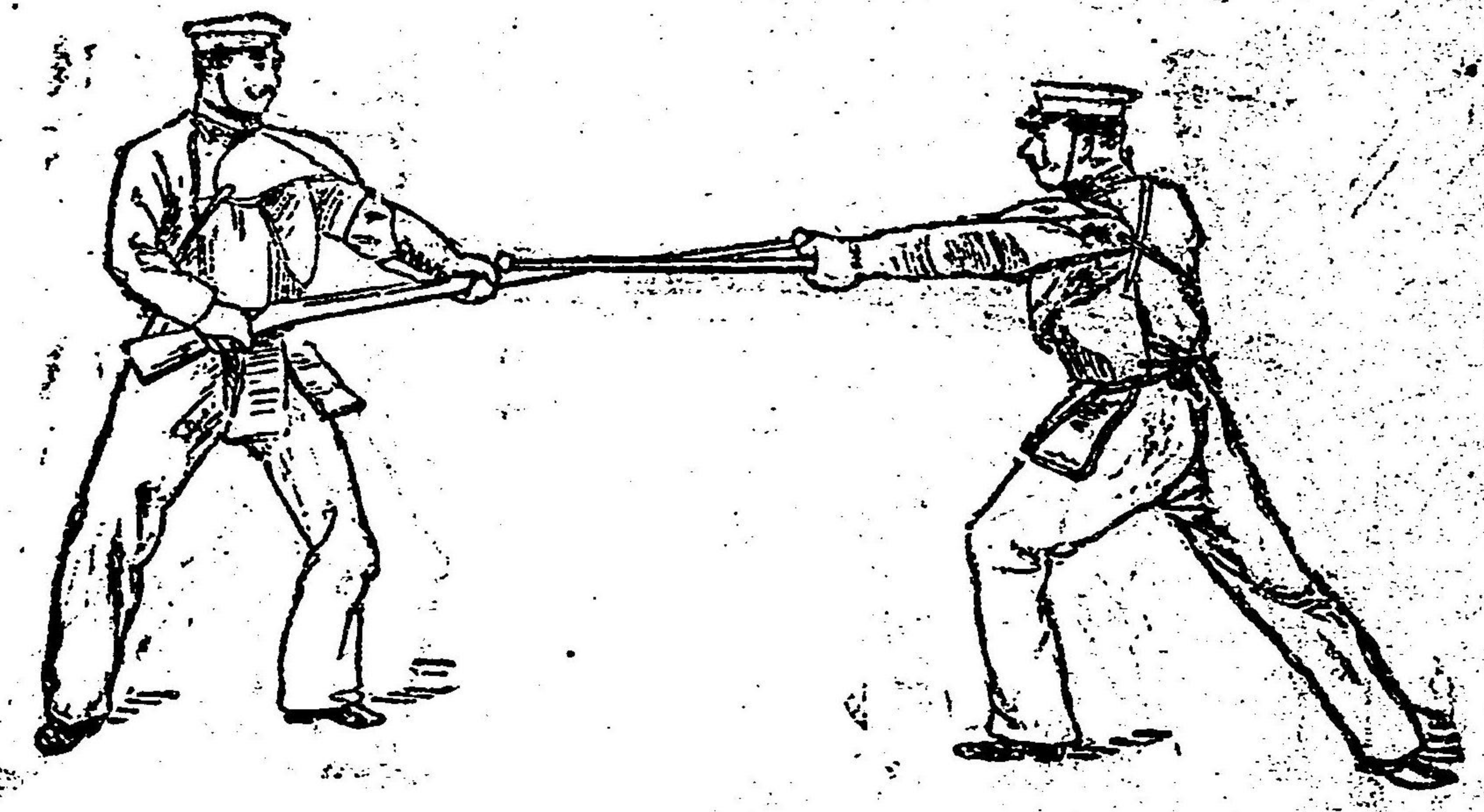
三 右ノ防拂及返突(第八圖)

號令
右ヲ防ケ

突ケ

第八圖 右ノ防拂

左拳ノ右上方ヨリ刺突ヲ受クルトキハ兩手



ヲ以テ銃ヲ右前方ニ進メツツ斜下方ニ防拂ス

返突ハ直突ノ要領ニ準ズ

四 左ノ防拂及返突(第九圖)

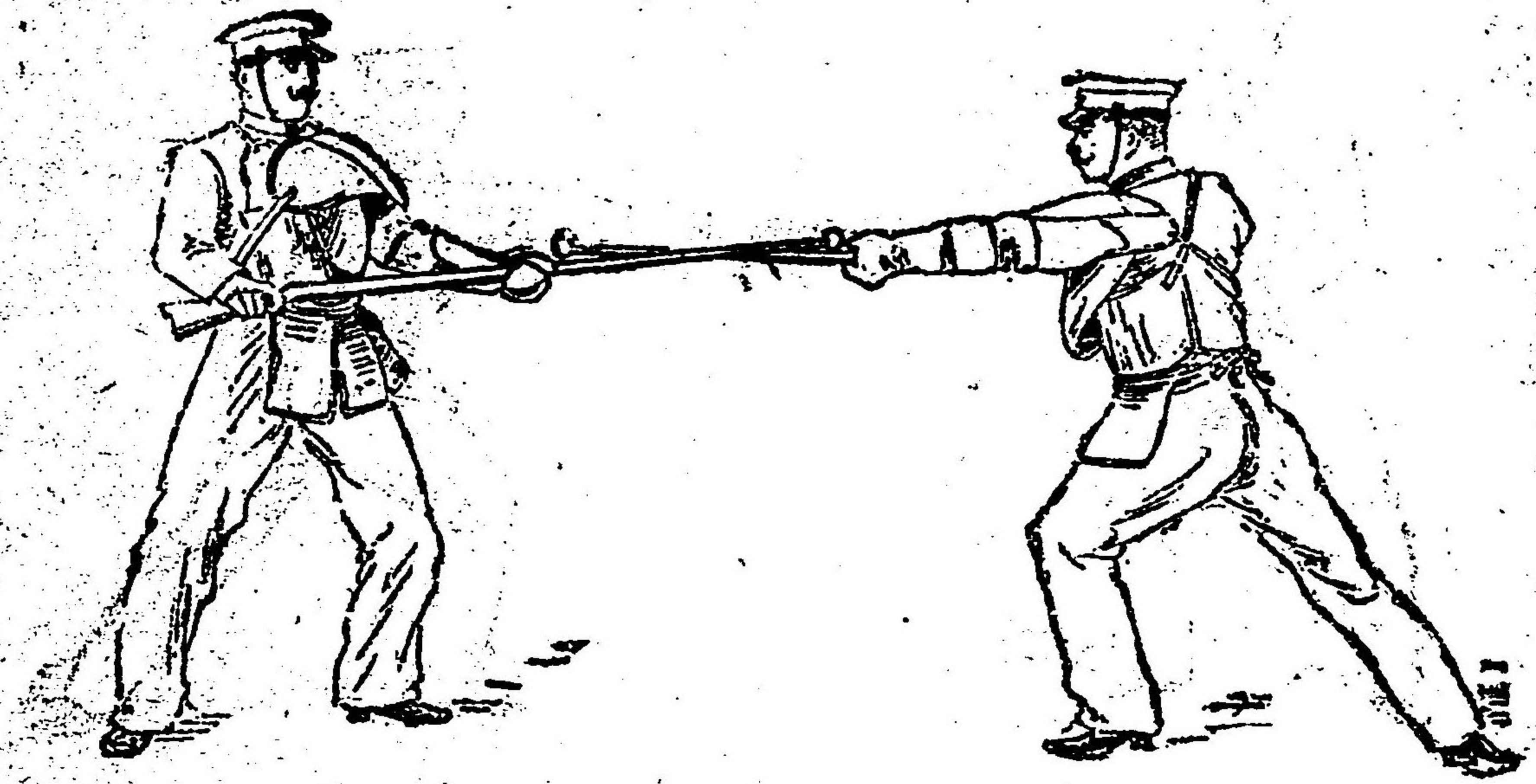
號令
左ヲ防ケ

突ケ

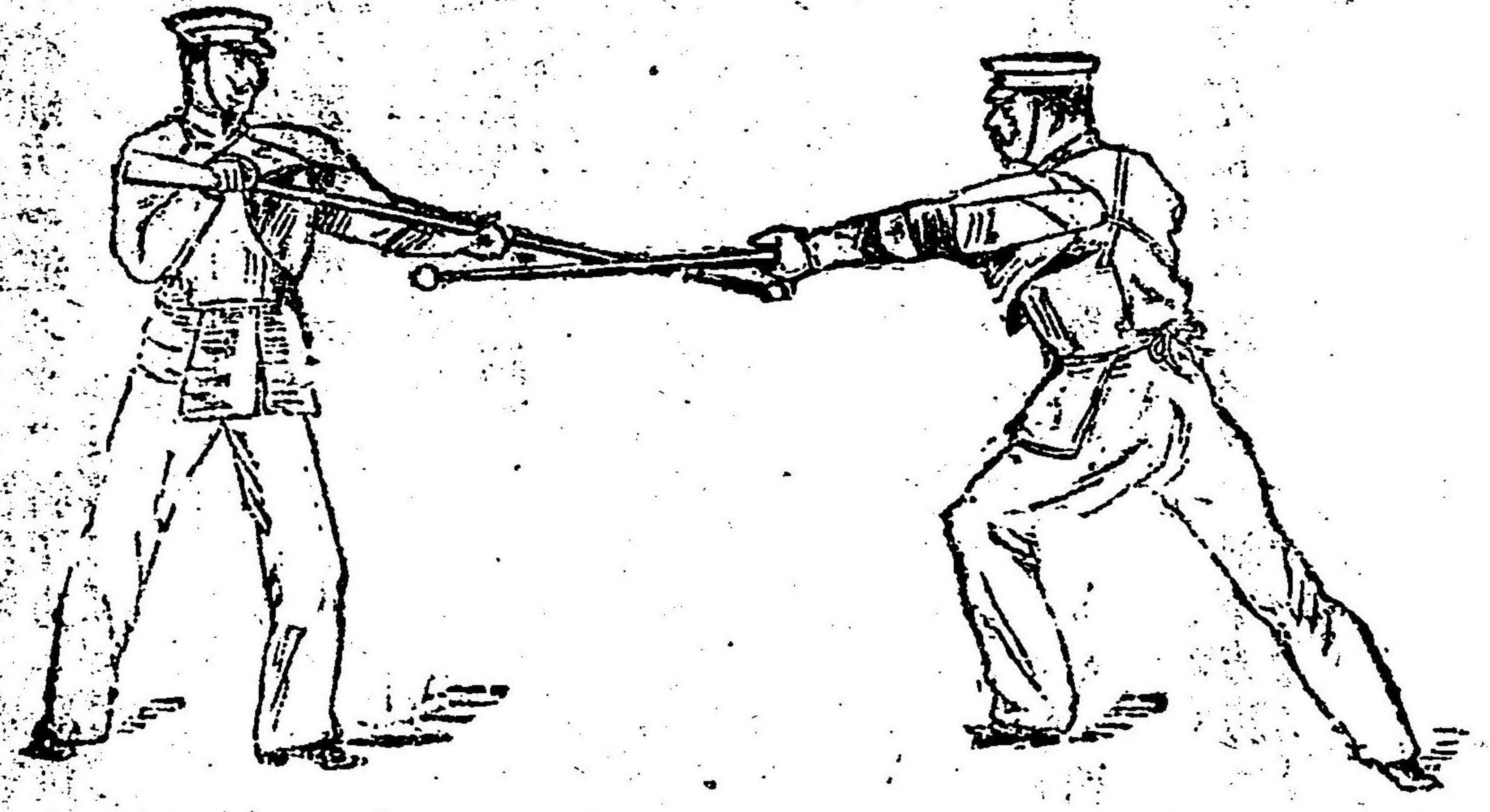
左拳ノ左上方ヨリ刺突ヲ受クルトキハ兩手ヲ以テ銃ヲ左前方ニ進メツツ斜下方防ニ

返突ハ直突ノ要領ニ準ズ

第九圖
左ノ防拂



第十圖
下ノ防拂



五、下ノ防拂及返突(第十圖)
○十四

號令

下ヲ防ゲ

突ケ

左ノ下方ヨリ刺突ヲ受クルトキハ兩手ヲ以テ銃ヲ前方ニ進メツツ右拳ヲ約右乳ノ高サニ上ゲ用心鐵ヲ殆ンド右方ニ向ケテ右下

方ニ防拂ス

返突ハ直突ノ要領ニ準ス

第三節 試合

一 試合ハ試合演習ノ通則ニ準據シテ行フモノトス

第五章 野外要務令摘要

第一節 司令部軍隊トノ連絡

其 一 命令及報告ノ傳達

(一) 通 則

一 命令及報告ハ距離ノ遠近ト其他ノ景況トニ從ヒ電信、電話、視號ヲ用ヒ或ハ筆記又ハ口上ヲ以テ之ヲ傳達ス

電話又ハ口上若シハ視號ヲ以テ傳達セラレタル重要ナル命令及報告ハ受領者ニ於テ之ヲ筆記シ且傳達者ノ氏名ヲ附記シ置クモノトス

(二) 傳達法

命令及報告ハ時間ニ餘裕ナキカ或ハ已ムヲ得ザル場合ノ外筆記シテ送達スベキモノトス
電信及電話ハ屢々、不通トナルコトアリ敵地ニ在テ殊ニ然リ故ニ最モ迅速ト確實トヲ要スル場合ニ於テハ縱ヒ其通信確實ト思惟スル時ト雖モ之ト同時ニ筆記セル命令及報告ノ

送致ヲ必要ト爲スコトアリ

口上ヲ以テ命令及報告ヲ傳フル時ハ傳令使ハ出發前之ヲ復唱スルヲ要ス

第二節 警戒勤務

其一 通則

一 敵ノ近傍ニ在ル軍隊ハ各特別ノ警戒ヲ要ス而シテ此警戒ニ當ル部隊ノ任務ハ全隊ノ爲メニ奇襲ヲ防禦シ本隊指揮官ヲシテ必要ノ命令ヲ下シ且之ヲ實行スルノ時間ヲ得セシムルニ在リ之ガ爲メ遠大ノ距離ニ亘リ搜索ヲ行フノ外軍隊ハ絶エズ其所在地ノ附近ヲ搜索スルヲ要ス

其二 行軍ノ警戒

(一) 要領

一 行軍スル軍隊ハ展開ノ爲メ若干時間ヲ要ス故ニ其警戒隊ノ任務ハ本隊ニ展開ノ時間ヲ與ヘ且備少ノ障礙ヲ除去シ以テ本隊ノ行進ヲシテ滯滞ナカラシムルニ在リ

二 凡ソ軍隊ハ推進ハ前進ハ前衛ヲ退却ハ後衛ヲ備フ又要スレバ側衛ヲ以テ側面ヲ掩護スルヲ要ス

(二) 前衛

一 騎兵旅團若クハ其一部ハ軍ノ正面前ニ在リト雖モ他ノ任務ヲ有スルヲ以テ多クハ其背後ニ行進スル軍隊ヲ直接ニ掩護スルヲ得ズ故ニ其背後ノ軍隊ハ此騎兵ノ在ル時ト雖モ亦前衛ヲ設クルヲ要ス而シテ前衛ハ爲シ得レバ其騎兵ヲ以テ前方ニ在ニ騎兵旅團等トノ連絡ヲ取リ之ヲ保持スルモノトス

二 前衛ハ前衛本隊、前兵及前衛騎兵(若シ此騎兵アレバ)ニ區分ス

三 前衛本隊ハ歩兵ノ大部分、野戰砲兵、工兵(若シ全部ヲ前兵ニ屬セザレバ)ヨリ成ル

四 前兵ハ前衛歩兵ノ四分一乃至三分一及必要ノ騎兵、工兵ヲ以テ編組ス

五 前兵ニ配附スベキ騎兵ハ以テ本道ノ兩側ヲ搜索スルニ足リ歩兵ヲシテ側方ニ斥候ヲ派遣スルコトヲ免レシムルヲ度トスベシ

六 大ナル前兵ニ在テ其警戒ヲシテ益々確實ナラシメンガ爲メ之ヨリ一部隊ノ派遣ヲ要スルコトアル時ハ更ニ歩兵一中隊ヲ前方約三百乃至四百米ニ出ス然ルトキハ之ヲ前兵支

部ト稱ス

七 前兵(若クハ前兵支部)ハ概テ前ト同一ノ距離ニ步兵ノ尖兵ヲ出ス又前衛ニ屬セラレタル騎兵僅少ニシテ其大部ヲ前兵ニ附屬セラレタル時ハ之ヲ以テ步兵尖兵ノ前方ニ更ニ騎兵尖兵ヲ出スモノトス然レドモ時宜ニ依テハ步兵尖兵ヲ省キ單ニ騎兵尖兵ノミヲ出スコトアリ

八 歩兵ノ尖兵ハ一分隊以上ノ兵ヲ士官ノ指揮ニ屬シ以テ若干ノ抵抗カヲ備ヘ且前兵ノ援助ヲ借ラズシテ行進路ノ近傍ヲ成ルベク廣ク搜索スルコトヲ勉ムベシ之ガ爲メ其士官ハ尖兵ノ先頭ニ在テ行進シ前方ニ發生スル事項ヲ速ニ判別シ稍々開闊ナル地ニ在テハ所要ニ應ジ斥候ヲ派遣シ又村落若クハ蔭蔽地ニ在テハ多クハ大間隔ニ散開シテ行進シ通常二人ノ兵卒ヲ前兵トノ中間ニ置キ以テ之ト連絡ヲ保持セシムベシ

九 騎兵尖兵ハ約一分隊ノ兵ヲ士官ノ指揮ニ屬シ其士官ハ先頭ニ在テ行進シ通常其一騎若クハ二騎ヲ後方道路上ニ置キ背後ノ連絡ヲ保持セシム又此尖兵ハ路傍ノ高處ニ登リテ近傍ヲ偵視シ然ル後疾歩ヲ以テ其駐止ノ爲メニ生ジタル遲滯ヲ回復スベシ

十 前衛ハ本隊ノ行進ヲシテ已ムヲ得ザルノ故障アルニ非ザレハ絶エズ齊一ニシテ滯滞ナカラシメシコトニ注意スベシ

(三) 側衛

一 行軍ノ警戒ニ於テ前衛ハ前方ノ外斥候ヲ行進路ノ側方ニ出シ警戒スルヲ要ス若シ斥候ノモニテ其警戒十分ナラザル時ハ更ニ側衛ヲ分遣ス

此側衛ハ形勢ニ應ジテ前兵或ハ前衛本隊ヨリ分遣シ或ハ又直ニ本隊ヨリ分遣ス (本條并ニ中前衛ニ關スル規定ハ退軍ノ時其後衛ニ適用ス)

二 側衛ノ兵力及編組ハ危險ノ大小ト地形トニ應ジテ定ムルモノトス而シテ側衛ニハ搜索及連絡ヲ迅速ナラシムル爲メ特ニ騎兵ヲ附屬スルヲ要ス

三 前進變ジテ側進ト爲ル時ハ從來ノ前衛ヲ以テ側衛ト爲シ而シテ本隊ハ新ニ前衛ヲ編成シ或ハ時宜ニ依リ後衛ヲモ設置スルヲ可トス

四 側衛ハ時ノ形勢ニ從ヒ或ハ前衛若クハ本隊ト齊頭ニ在テ行進シ或ハ適當ノ陣地ヲ占領シ本隊ヲシテ其背後ヲ通過セシメ而シテ後本隊ニ追及スルモノトス

五 側衛ノ部署及警戒方法ハ其時ノ形勢ニ從テ異ナルベシ

六 側衛駐止スル時ニ在テハ其任務及處置ハ凡テ前哨ノ爲メニ定メタル規則ニ從フベク其
行進スル時ニ在テハ前衛ニ於ケルガ如キ部署ヲ以テ正面及側面ヲ警戒シ時宜ニ依リ兼テ
側衛ヲモ警戒スルモノトス

七 歩兵又ハ騎兵獨立シテ行進スル時ハ右ト同法ニ從テ其側面ヲ警戒スベシ

(四) 後衛

一 後衛ハ前衛ノ如ク常ニ本隊ノ援助ヲ胸算スルヲ得ズ故ニ後衛ハ戰鬥ヲ爲サンガ爲メ地
形ノ應用ニ顧慮スルコト最モ緊要ナリトス前面ニ障礙物ヲ有スル陣地ヲ占領スル時ハ後
衛ハ敵ヲシテ展開セシメ或ニ迂回セザルヲ得ザラシメ以テ本隊ニ時間ノ餘裕ヲ得セシム
ルモノトス

二 後衛ハ此目的ヲ達スルニ眞ノ戰鬥ヲ爲サズ且歩兵ヲシテ之ヲ與ラシメザルヲ得バ大ニ
利益アリトス然レドモ非常ノ場合ニ於テハ輕軟ノ抵抗ヲ爲サザルヲ得ザルコトアリ然ル
トキハ其編組モ亦此趣旨ニ應ジテ斟酌スベシ

三 後衛ハ後衛本隊、後衛及後衛騎兵ニ區分シ其編組及部署ハ前衛ニ準ス

四 後衛騎兵ハ敵ト接觸ヲ保持シ且殊ニ敵兵我側方ニ迂回スルコトナキヤ否ヤニ注意スベ
シ

其三 前哨

(一) 要領

一 前哨ハ敵ノ情況ヲ搜索シ休止ノ軍隊ヲ警戒スルヲ以テ任トス

(二) 混成前哨

(イ) 通則

一 前哨ハ通常分テ前哨本隊、前哨中隊及前哨騎兵ト爲ス

二 騎兵ノ數ニ乏シキカ地形險難ナルカ或ハ敵ト接近セル時ノ如キ特異ノ形勢ニ在テハ特
二 前哨騎兵ヲ配附セズ此ノ如キ時ハ前哨本隊及前哨中隊ニ其須要ニ從ヒ騎兵ノ小部隊ヲ
附屬セシム但此騎兵ハ少クモ傳令騎兵ニ十分ナルヲ要ス

三 前哨本隊ノ位置ハ通常主要ナル道路ノ近傍ニシテ抗戰ニ適スル要點ノ後方ニ在ルヲ可
▲七

トス此本隊ハ前哨中隊ノ後援ト爲リ敵襲ヲ受クルニ當テハ本隊ニ先シ抗戰ニ任ズルモノトス

四 前哨中隊ハ主要ナル警戒線ニシテ敵ヲ抗拒シ以テ休止ヲ軍隊ヲシテ戰備ヲ爲スノ時間ヲ得セシム此中隊ハ其受クル所ノ命令ニ依テ其位置ヲ固守スベキヤ又ハ背後ヨリ増援ヲ受クベキヤ或ハ前哨本隊ノ附近ニ於ク前哨擧リテ一致ノ抵抗ヲ爲スベキヤ否ヤヲ審ニ

ベシ時宜ニ依リ前哨線中各個ノ中隊ニ各別ノ任務ヲ與フルヲ要スルコトアルベシ

五 前哨中隊ハ夜間其隊ヨリ少哨若クハ獨立下士哨 (小哨ヨリ出ス下士哨ト背後ノ部隊ヨリ出ス下士哨ト稱シテ獨立) ヲ出シテ警戒ス時宜ニ依テハ晝間モ亦此等ノ哨兵ヲ出ス

六 其地ノ形勢ニ應ジテ前哨中隊ノ外更ニ前哨本隊或ハ前哨本隊ヨリ直ニ其前方若クハ側方ニ小哨若クハ獨立下士哨ヲ配置スルコトアリ

七 前哨騎兵ハ晝間ニ於テハ最前線ニ在テ警戒ヲ擔任シ前哨中隊ハ之ガ第一ノ後援タルベシ而シテ此騎兵ノ主力ヲ前哨線ノ前方ニ置クベキカ或ニ退テ前哨中隊ノ附近ニ在ラシム

ベキカハ其時ノ形勢ニ從フベシ

(ロ) 前哨本隊

一 一般ノ形勢殊ニ敵ノ遠近ニ因テ前哨司令官ハ前哨本隊ノ取ルベキ戰備ノ緩急ヲ定ムベシ

二 歩兵ハ背囊ヲ卸ス其他本隊ノ全部若クハ其一部又銃線ノ側ニ在ルベキカ又全隊或ハ部隊毎ニ交互ニ食シ馬ニ秣ヒ或ハ飲フベキカ又部隊毎ニ鞍ヲ卸シ或ハ之ヲ改装スベキカハ前哨司令官之ヲ定ム

三 前哨本隊ハ所要ニ從ヒ外衛兵(第四節其二ノ三)ヲ配置シ自ラ警戒ス此本隊ハ警戒ノ時ニ非ザレバ絶エテ號音ヲ用フルコトナシ若シ前方ニ於テ警戒アレバ前哨本隊ハ直ニ戰備ヲ爲スモノトス

(ハ) 前哨中隊

一 前哨中隊ノ數及其配置法ハ敵情地形殊ニ道路網ノ形狀ニ從フモノナリ

二 前哨中隊ニハ特別ノ番號ヲ附スルコトナク各其中隊ノ番號(前哨第何中隊)ヲ稱フルモノトス

▲九

- 三 前哨中隊ハ直ニ夜間占位スベキ地ニ到ルベシ
- 四 前哨中隊ハ通常背囊ヲ卸ス然レドモ其一部ハ常ニ又銃線ノ側ニ在テ戰備ヲ忘ル可ラズ而シテ一人ト雖モ其任務ノ爲メカ或ハ許可ヲ得ルニ非ザレバ哨所ヲ離ルヲ許サズ又之ニ屬スル騎兵ハ鞍ヲ卸スヲ許サズ然レドモ交互ニ鞍ヲ改装シ飲ヒ秣ハシムルヲ要ス
- 五 前哨中隊ハ其隊ヲ警戒シ及其前方ノ部隊ト相瞻望スル爲メ銃前ニ一ノ單哨ヲ備フ若シ中隊掩蔽(家屋等)下ニ在ル時ハ之ヲ復哨トス又地形甚ダ險蔽シ之ヲ要スルトキハ數個ノ復哨ヲ配置ス

(二) 小哨

- 一 小哨ハ最前線ニ在テ警戒ヲ擔任ス故ニ小哨長ハ注意周密ニシテ職務ニ勤勉ナルベク下士兵卒ハ精神ヲ奮勵シ監視ヲ嚴密ニセザル可ラズ小哨長ニ充ツベキ士官缺乏ノ時ハ下士ノ最モ材力アリテ其勤務ニ堪フベキ者ヲ選ビ之ニ充ツルヲ得
- 二 小哨ニハ小隊或ハ中隊ヲ用フベシ
- 三 各小哨ノ哨所ニ就クヤ爲シ得ル限リ黃昏前ニ能ク其地形ヲ認識シ且其占ムベキ位置ニ在ルヲ要ス

在ルヲ要ス

- 四 特別ニ重要ナルカ或ハ甚ダ危險ノ地ニハ必ズ下哨ヲ用フベシ此下哨ノ人員ハ其任務ニ依リ差異アリト雖モ少クモ下士(時宜ニ依リ上等兵)一人兵卒六人ヲ以テシ通常其二入ハ歩哨ト爲リ自餘ハ交代兵トシテ其近傍ノ遮蔽物ニ據リ休止シ在ルベシ
- 五 小哨ヨリ交代スベキ復哨ハ其小哨ヲ距ルコト約四百米ヲ越エザルヲ通常トス
- 六 歩哨ノ配置ハ通常一哨所ニ屬スル兵卒(交代兵ヲ含ム)ヲ一人ノ下士或ハ上等兵ニ引率セシメ小哨ノ位置ヨリ同時ニ各哨所ニ提經ニ由テ豫メ指示シタル地點ニ就カシム而シテ小哨長ハ各哨所ニ到リ歩哨ニ守則ヲ授ケ且交代兵ニモ聽聞セシムベシ然ル後下哨ヲ除キ他ノ下士或ハ上等兵ハ其交代兵ヲ率キテ小哨ニ歸ルモノトス
- 七 歩哨ノ員數及其位置ヲ初ヨリ概定スル能ハザル時ハ逐次ニ之ヲ配置スベシ
- 八 歩哨ハ各小哨毎ニ復哨ト下士哨トヲ通シテ右翼ヨリ番號ヲ附スルモノトス
- 九 小哨長ハ其哨所ニ歸還ノ後復哨ニ充テザル者ヨリ若干ノ斥候ヲ區分シ尙ホ殘餘ノ兵ヲ以テ其他ノ勤務ニ充ツルモノトス而シテ歩哨ノ交代兵中同時ニ交代スベキ者及各斥候毎

又銃若ヲ銃架ニ托シ置クベシ

十 上官小哨ニ來レバ小哨長ハ出テ之ニ報告ス然レドモ下士兵卒ハ依然休憩シ在ルベシ

十一 下士兵卒ハ小哨長ノ命令ニ依リ背囊ヲ卸スヲ得然レドモ帶革(銃劍、彈藥盒)雜糞及

水筒ハ各自常ニ其身體ニ纏フベシ

十二 糧食ハ其中隊ヨリ之ヲ分配ス小哨長ハ下士兵卒休憩ノ比例ヲ平等ナラシムルコトニ

注意スベシ且時宜ニ依リ下士兵卒ノ一部ヲシテ睡眠セシムルコトヲ得

十三 任務ノ爲メカ或ハ許可ヲ得ルニ非ザレバ一人モ小哨ヲ離ル、ヲ許サズ

十四 傳令騎兵ハ鞍ヲ卸スヲ許サズ然レドモ交互一人ツ、鞍ヲ改装シ飲ヒ、秣フベシ但此

騎兵人馬ノ爲メニスル糧秣ノ供給モ亦其前哨中隊ヨリ之ヲ爲スモノトス

(ホ) 歩哨

一 歩哨線ニ在ル歩哨一般ノ守則左ノ如シ

歩哨ハ絶エズ敵軍ノ方向ヲ監察シ凡テ疑ハシキ徴候ニ深ク注意シ若シ敵ニ關シテ發見セ

シ事アルハ速ニ其一人ハ小哨(時機ニ依リ中隊)ニ報告スベシ若シ猶豫セバ危殆ニ陥ル

ト觀メシトキ或ハ敵襲ト知リタルトキハ急斷ノ射撃ヲ爲シテ警報スベシ

晝間ハ我軍ノ警戒、密集部隊、斥候及傳令使ニ歩哨線ノ出入ヲ許ス自餘ノ者ノ通過ニ關

シテハ凡テ小哨長ノ指示ヲ受クベシ而シテ歩哨ノ命ズル所ニ從ハザル者アレバ之ヲ射撃

ス

夜間歩哨ニ近ヅク者アレバ銃ヲ構ヘ「誰カ」ト問フ若シ呼ブコト三次ニ至ルモ尙ホ答ヘザ

ルトキハ射撃スベシ凡テ其他ノ處置ハ晝間ノモノニ異ナルコトナシ

歩哨ハ命令アルニ非ザレバ坐臥シ或ハ銃ヲ手ヨリ放スヲ許サズ而シテ晝間立銃ヲ爲スカ

或ハ提銃ヲ爲スカ若クハ銃ヲ腕ニ(銃口ヲ前ニシ稱々水平ニ腕ニ托ス)スベキカハ其隨

意下ス然レドモ夜間ハ提銃提銃又ハ腕ニ銃ヲ爲スモノトス又上官ノ來ルアルモ之ニ敬

禮スルヲ要セズ若シ上官ヨリ質問アレバ監視ヲ中止スルコトナク唯姿勢ヲ正シテ答フベ

シ

二 歩哨配置ノ時小哨長ノ歩哨ニ特別ノ守則ヲ與ヘ一般ノ守則ヲ補足ス其特別守則ハ左ノ

如シ

▲ 十四
其歩哨ノ番號、隣歩哨ノ位置及番號、小哨及中隊ノ位置、此各位置ニ通ズル捷徑、前

方ニ進メタル部隊ノ位置、敵情、特ニ監視スベキ地方及顧慮スベキ村落等ノ名稱、
其他隣歩哨トノ連絡ハ動哨ニ依テ保ツベキカ又復哨ノ人員三人若クハ四人ナル時ハ監視
如何ヲニスベキカ等須要ノ事ニ關スル守則ヲ定ムベシ

三 歩哨交代ノ時間等ハ小哨長之ヲ規定ス歩哨ノ交代ハ新舊兩兵敵ノ方向ニ面シテ並列シ
舊歩哨ハ新歩哨ニ特別守則及其實見セシ事件ヲ傳告スベシ但此交代ニハ必ず歩哨掛下士
(上等兵)ノ監視ス要ス

四 凡テ銃前哨ハ敵體ヲ行ハズ又之ガ爲メ「銃」ヲ呼ブコトナシ

(一) 斥候

一 斥候ノ派遣ヲ規定スルノ要旨ハ搜索ヲ中絶セザルニ在リ之ガ爲メ夜間ト雖モ亦地形ノ
許ス限リハ騎兵斥候ヲ派遣スルヲ要ス

二 搜索ハ騎兵ノ任務ナレドモ其區域中歩兵ニ適スルノ距離ハ歩兵ノ斥候ヲ使用スベシ

三 斥候ノ動作并ニ之ニ與フベキ指示ハ敵ノ遠近及危險ノ大小ニ從ヒ異ナルモノトス

四 如何ナル場合ニ在テモ斥候ノ効用ハ兵卒殊ニ其長ノ選抜ニ因テ期望スベシ此選抜ハ其
授クル指示ノ精密ナルニ愈サルコト更ニ大ナルモノトス

五 斥候ハ敏捷ノ長ニ少クモ二人ノ兵卒ヲ附ス緊要ノ場合ニ在テハ其長ハ將校ヲ以テ之ニ
任ズベシ

六 凡ソ斥候勤務ニ要スル所ノ性質四アリ曰ク警戒曰ク熱心曰ク沈著曰ク剛斷蓋シ警戒ナ
ル者ハ未タ知ラザルノ地ニ於テ能ク其地形、方位及道路ヲ知り熱心從事スル者ハ久シキ
ニ耐ヘ勞ヲ覺ヘズ沈著及剛斷ナル者ハ不意ノ事ニ驚カズ如何ナル危險ニ際スルモ猶ホ能
ク脱退ノ方法ヲ求メ得ルモノナレバナリ

七 斥候ハ其進退動作ニ深ク注意シ靜肅ニシテ喧噪ナル可ラズ又屢々駐止シテ警音ヲ聽取
シ能ク地形ヲ諳識スベシ是レ地形ニ就テノ解説ヲ爲シ且時宜ニ依リ嚮導ト爲リ得ベキカ
爲メナリ而シテ要スレバ往路ト異ナル歸路ヲ擇ヒ敵ニ中斷セラル、危害ヲ避クベシ

八 歩哨線ノ前方ニ在ル土地ヲ監視スル爲メ某地點ニ斥候ヲ駐止セシメ又敵兵ヲ捕獲スル
爲メ之ヲ潜伏セシムルヲ有利トスルコトアリ

九 斥候歸著ノ時刻ハ概定スルヲ可トス又其時ノ形勢ニ從ヒ背囊ヲ脱セシメ或ハ馬裝ヲ輕便ニシテ派遣スルヲ得

十 凡テ斥候ハ歩哨線ヲ通過スル時其近隣ノ歩哨ニ其往ク所ノ方向ヲ告ゲ其歩哨ノ見聞セシ新狀況ヲ聞キ歸路ニハ歩哨ノ監視區内ニ於テ敵ニ關シテ見聞セシ事件ヲ單簡ニ告知スベシ

十一 斥候ノ歸路往路ト異ナル時ハ其歸路ヲ監視スル歩哨ニ要スレバ斥候ノ歸還スル概略ノ時刻等ヲ豫メ告知シアルヲ要ス夜間ニ在テハ殊ニ然リ

(ト) 巡察

一 巡察ノ任務ハ時々歩哨線内ヲ巡視シ歩哨ヲ監視シ且歩哨ヲ配置セサル土地ヲ搜索シ比隣哨所ト連絡ヲ通ズルニ在リ而シテ巡察ハ其長及兵卒若干名ヨリ成ルモノトス

二 歩哨線ニ於テ射撃或ハ喧嘩セシ時ニ於テモ亦巡察ヲ派遣シ其事實ヲ究メ且歩哨ヲ援助セシムルコトアリ

三 巡察ハ通常小哨ヨリ出スト雖モ時トシテ前哨中隊若クハ前哨本隊ヨリ出スコトアリ

(オ) 獨立下士哨

一 歩兵ノ前哨線中ニ在ル獨立下士哨ハ其警戒區域狹小ナルモ其勤務及動作ハ小哨ト同一ノ原則ニ從テ而シテ此下士哨ハ復哨ノ交代兵ノ外斥候ニ充ツベキ者若干名ヨリ成ルモノトス又時宜ニ依リ上等兵ヲ以テ其長ト爲スコトアリ

又獨立下士哨ハ歩哨線前ニ出スコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ其兵員通常ヨリ多キヲ要ス其動作ハ任務ニ依テ定マルモノニシテ或ハ前方ニ派遣シタル騎兵ノ爲メ橋梁、林線等ノ如キ地點ヲ固守シ或ハ夜間敵ノ運動ヲ監視ス之ガ爲メ日夜ニ至レバ敵方ニ通ズル主要ナル道路ノ近傍ニ潜伏シ敵ノ運動我ニ危殆ヲ及ボスベシト認ムルトキハ急劇ノ射撃ヲ行ヒ急報スベシ

(リ) 小哨及獨立下士哨ノ交代

一 小哨及獨立下士哨ノ交代ハ靜肅且隱蔽シテ之ヲ爲スベク又要スレバ之ガ爲メ特ニ警戒法ヲ設クベシ

二 此交代ト同時ニ新舊兩哨ヨリ共同ノ斥候ヲ派遣ス是レ新哨ノ斥候ヲシテ歩哨線前ノ地

十七

形ヲ諸識セシメンガ爲メナリ

三 凡ソ交代ハ拂曉ニ於テスルヲ可トス然レドモ時刻ノ撰定ハ特ニ其時ノ景況ニ因ルモノトス

(ヌ) 前哨騎兵

一 前哨騎兵ノ兵力ハ警戒ヲ命セラレタル正面ノ廣狹、搜索スベキ距離ノ遠近ニ適合セザル可ラズ

二 前哨騎兵ハ其運動輕捷ナルヲ以テ前ニ示セシ步兵ノ如ク一定ノ配置及其形狀ニ固執スルヲ要セズ散開セル土地ニ於テハ大ニ其兵ヲ集團シ在ルヲ得ルト雖モ蔽蔽ノ土地ニ於テハ數多ニ分割セザルヲ得ズ故ニ前哨騎兵ノ部署法ハ其時ノ形勢ニ從ヒ同一ナラズト雖モ通常一個若クハ稀ニ數個ノ控兵ト爲シ之ヨリ一個若クハ數個ノ小哨或ハ獨立下士哨ヲ出シ或ハ又此兩哨ヲ分遣ス

三 騎兵小哨ハ概テ控兵ヨリ遠距離ニ一部隊ノ在ルヲ必要トスル時ニ於テ設置セラル、モノトス故ニ此小哨ハ必ズ將校ノ指揮ニ屬シ其兵力ハ大約一小隊トス

騎兵小哨ハ直接ニ警戒スル爲メ銃前哨ヲ備フベシ

四 騎兵小哨ノ需要品ハ總テ所屬騎兵中隊ヨリ支給セラル、モノトス

五 下士哨下士(若クハ上等兵一人及兵卒二人以上)ハ通常皆下馬シテテ多クハ其二人ヲ以テ監視ニ任ス

六 若シ特ニ遠地ヲ展望シ得ルノ利益ヲ認ムル場合ニハ此監視ニ任ズル哨兵ヲ更ニ高キ地物上ニ配置シ或ハ乘馬セシム

七 下士哨ハ遠隔ノ地ニ斥候ヲ出スコトナシ

八 下士哨ハ鞍ヲ卸ス可ラズト雖モ相代リテ改装シ又飲ヒ秣フベシ

九 配置久シキニ亘ル時ハ下士哨モ亦交代セシムベシ

十 騎哨ハ二人若クハ三人ヨリ成ルモノトス而シテ其人員少キヲ以テ下士哨ニ比スレバ小哨ノ兵力ヲ減殺スルコト少キノ利アリ

十一 騎哨ノ乘馬シアルベキヤ否ヤハ其時ノ形勢ニ從テ之ヲ定ムルモノトス

十二 騎哨ノ交代ハ小哨長ノ規定ニ從フモノトス

十三 下馬シテ監視ヲ爲ス所ノ騎哨ハ立銃或ハ提銃ヲ爲シ若クハ銃ヲ腕ニス其馬上ニ在ル者ハ揚銃ヲ爲シ或ハ鞍上ニ横フルモノトス

十四 前哨騎兵ハ背後ノ歩兵隊ト絶エズ連絡ヲ保持スベク殊ニ其小哨及獨立下士哨ハ最近ノ歩兵隊ニ直接ニ切要ナル通報ヲ爲スヲ要ス

第三節 行軍

一 凡ソ戰時軍隊ノ爲スベキ事業ノ大部分ハ行軍ニ在リ行軍ハ凡テノ作戰ノ基礎ヲ成シ而シテ其實施ノ確實ナルハ其戰鬪ノ結果ヲシテ良好ナラシムルノ原因ナリ

二 平時行軍ニ精熟シタル軍隊モ動員ノ時ニ至テハ勞苦嚴格ノ慣習ヲ失ヒタル在郷兵ノ加ハルガ爲メ又砲兵ニ在テハ駢駕輓曳ノ慣習ナキ徵發馬匹ノ加ハルガ爲メ大ニ行軍力ヲ妨害セラル故ニ動員ニ際シ苟モ練習ノ時間ヲ得バ之ヲシテ行軍ニ習熟セシムルヲ計ルベシ

是レ殊ニ徒歩兵ニ緊要トス蓋シ徒歩兵ハ行軍ノ初メニ於テ新靴ヲ穿ツガ爲メ特別ノ困難ヲ感ズベケレバナリ

三 騎兵ハ動員ヲ行フト雖モ概シテ馬匹ニ變化ヲ及ボスコト少シ故ニ戰時初メヨリ之ニ要スル非常ノ行軍力ニ堪ヘザル可ラズ

四 行軍中軍紀ヲ嚴格ニシ被服、裝具、蹄鐵ヲ監察シ人馬ノ給養及衛生ニ注意スルハ即チ行軍力ヲ保持シ且之ヲ増加スルニ最も有効ノ方法ナリ

五 長途行軍ニ於テ徒歩兵ノ靴傷、馬匹ノ鞍傷及四肢ノ疾病ハ列兵ヲ減少ス此減員ノ多少ヲ以テ行軍ニ用ヒタル注意ノ深淺ヲ知り且其軍隊ノ價値ヲトスルニ足ルモノトス

六 徒歩兵、乘馬兵及馬匹ニ就キ行軍中絶エズ監察シ休憩中及宿營ニ於テ彼等自ラ適當ノ保護ヲ爲スヤ否ヤヲ監察シ且此等ノ事ヲ忽ニスル者ヲ嚴罰スルハ中隊長ノ責任ナリ而シテ此ノ如キ豫防方法ヲ施スハ行軍中ノ減員ヲ防グ最良ノ手段トス

七 行軍ノ軍紀ニ慣熟シタル軍隊ニシテ各人深ク注意シ勉メテ行軍ニ要セザル徒勞ヲ避ケバ永ク缺員ヲ生ゼズシテ行軍スルヲ得ベシ而シテ此徒勞ヲ避ケンニハ殊ニ出發時刻ノ規定ニ注意スルヲ要ス

八 大部隊ヲシテ一ノ集合場ヨリ逐次ニ隊毎ニ出發セシムベキ時ハ其出發ノ順序ニ應ジ其集合場ニ到着スベシ順序ヲ適當ニ規定スルヲ要ス蓋シ到着早キニ過グルモノハ其出發ヲ

▲ 二十一

待ツガ爲メ無益ノ疲勞ヲ爲スベクレバナリ故ニ要スル時刻ヨリ早ク宿營ヲ發スルコトハ
決シテ爲ス可ラズ而シテ合シテ一隊ト爲ルベシ各部隊ハ行軍スベキ方向ニ於テ集合セシ
ムルヲ原則トス

九 行軍命令ヲ作ルニハ各部隊ノ行軍長徑、行進速度及其集合場ニ至ルノ距離ヲ顧慮スル
ヲ要ス

十 出發時限ハ撰定ス早キニ過グ可ラズ若シ作戰上ノ要求ニ妨ゲナキトキハ第一ニ出發ス
ル歩兵ト雖モ拂曉以前ニ出發ス可ラズ騎兵及砲兵ニ在テハ多クハ拂曉一時間後ニ出發ス
ルヲ可トス然レドモ熟地ヨリ拂曉前ニ出發スルハ日暮後生地ニ到着スルニ優レリトス

十一 軍隊出發後即チ道路ニ出ツレハ徒歩兵ハ「途歩」ノ號令若クハ號音ヲ傳ベ自餘ノ兵種
ニ在テハ「休メ」ノ號令若クハ號音ヲ傳フ是ニ於テ歩ヲ調フルヲ要セズ特別ノ時ヲ除クノ
外ハ談話シ唱歌シ喫煙スルヲ許シ刀ハ鞘ニ納メ銃ハ各兵ノ欲スル所ニ從ヒ或ハ右肩、左
肩ニ擔ヒ或ハ負革ヲ以テ肩ニ懸クベシ又絶エテ敬禮ヲ表スルコトナシ而シテ軍隊ハ路上
便利ナル側方ヲ擇ビ行進スベク若シ道路ノ兩側便利同ジキ時及他隊ニ遭遇セシ時ハ右側

ヲ行進スベシ行軍中背後ニ從フ諸隊ハ皆先頭部隊ニ準ズベク且兵卒ハ勉メテ前後ニ重疊
シ以テ縱隊面ヲ擴張セザルコトニ注意スベシ

十二 廣キ街道ニ於テハ常ニ其一側ヲ虛フシ他隊ノ通過ニ供スベク狹キ道路ニ在テモ單獨
ノ騎兵ヲシテ其歩ヲ停止セシメス又縱隊ノ行進ヲ妨得スルコトナク疾走スルヲ得セシム
ベシ又其隊ニ屬スル乘馬將校ニ在テモ其虛フセル側方ニ出ヅルハ唯一時通行ノ時ノミタ
ルベシ行軍縱隊ノ大ナル時ニ在テハ殊ニ然リ

十三 道路險惡ナルカ或ハ炎熱ノ時ニ在テハ行軍縱隊ヲ兩側ニ分チ中央ヲ虛フスルヲ可ト
ス

十四 各個人恣ニ服裝ヲ紊スヲ禁ズ然レドモ襟ヲ開クガ如キ許スベキ事件ハ其時機ヲ誤
ラズ速ニ指揮官ヨリ全隊ニ令スベシ

十五 市街村落ヲ通過シ若クハ疲勞甚シキ時ハ行進譜ヲ奏セシムルヲ可トス南府(長遠
ナルトキハ最モ繁昌ナル部分)ヲ通過スル時ハ特別ノ事情アルヲ除クノ外徒歩兵ハ速歩
ニ移リ乘馬兵ハ隊伍ヲ整ヘザル可ラズ

十六 兵卒若シ已ムヲ得ズ隊列ヲ離ル、ヲ要スル時ハ小隊長（小隊長近傍ニ在ラザル時ハ分隊長）ノ許可ヲ受クベシ

十七 凡テ軍橋ヲ渡過スル軍隊ハ之ヲ主管スル工兵將校ノ示定スル軍橋渡過ノ注意ヲ必ズ遵守スベキモノトス故ニ部隊長等ハ軍橋ニ達スル前豫メ該示定ヲ知得スルコト必要ナリ

十八 縦列材料ヲ以テ架設セル軍橋渡過ニ關スル一般ノ規定左ノ如シ
其一 歩兵（工兵其他徒歩ノ軍隊） 通常四列側面ヲ以テ歩ヲ揃フルコトナク行進ス但其列ハ成ルベク整フルヲ要ス

其二 騎兵 下馬シ通常二伍縦隊ヲ以テ行進ス而シテ馬匹ハ成ルベク相接近シテ並列セ

ルメ下士兵卒ハ其馬匹ノ外側ニ沿ヒ正シク之ヲ誘導スベシ
騎兵ハ軍橋ニ達スル前若干ノ距離ヲ成ルベク緩徐ノ歩度ニテ行進シ以テ馬匹ノ軍橋上ニ於ケル不整ヲ豫防スベシ

其三 野戰砲兵 砲車縦隊ヲ以テ行進ス但野砲後馬及中馬ノ馭者ハ最モ正シク鞍馬ヲ誘

導シ其他ノ乘馬者ハ總テ下馬シ各車輛ハ約六米ノ距離（最後ノ兵卒ノ背囊ヨリ前馬ノ頭ニ至ル）ヲ取ルベシ
下馬セシ者ハ馬側ニ在テ正シク馬匹ヲ誘導シテ行進スベシ

其四 野戰重砲兵 概テ野戰砲兵ニ準ズ
其五 輜重車輛及同馭馬 一車（一）馬縦隊ヲ以テ行進ス
乘馬者ハ總テ下馬ス

十九 凡テ軍隊ハ橋ノ中央部ヲ行進スルヲ常則トス但特ニ示定アル時ハ此限ニ在ラズ
二十 乘馬ハ二騎相並列セシメ騎兵ニ就テ示シタル要領ニ從ヒ行進セシムベキモノトス

二十一 部隊ト同行セザル單獨ノ乘馬者ニ在テハ乘馬ノ儘通過スルコトヲ得
二十二 輜重車輛及總テノ乘馬馭馬ハ互ニ適當ノ距離ヲ以テ行進セシメ馬匹踏躓等ノ爲メ

隊列ヲ擾亂シ軍橋ノ毀損ヲ招クコトナカラシムルヲ要ス
二十三 人馬及車輛等ハ縱ヒ其前方ノ距離ヲ失フコトアルモ決シテ軍橋上ニ於テ回復スルヲ圖ル可ラス

二十四 大隊長(騎) 砲兵ニ在テハ中隊長(及)各縦列長等ハ當該部隊ノ軍橋ヲ通過シ終ル迄軍橋ノ入口ニ在テ部下ノ渡橋ヲ監視スベキモノトス又其出口ニモ監視者ヲ配置スルヲ要ス

二十五 部隊等若シ渡橋ニ際シ隊形ヲ變ズルノ必要アルトキハ軍橋ノ入口ヨリ約百米前ニ於テ之ヲ行ヒ而シテ部隊等ノ後尾軍橋ノ出口ヨリ少クモ百米ヲ經過シタル後ニ於テ行軍隊形ニ復スベキモノトス但部隊ノ大ナルニ應ジ適宜ニ此距離ヲ増大スルヲ得

二十六 行軍スル軍隊ノ大患ト爲スモノハ炎熱及近寒ナリ而シテ炎熱ノ際ニ在テハ徒歩兵(近寒ノ際ニ在テハ乘馬兵ハ殊ニ困難ヲ感シ之ガ爲メ僅少ノ時間ニ於テ多數ノ列兵ヲ減ズルコトアリ宜シク深ク豫防法ニ注意スベシ

二十七 炎熱ノ際シ特ニ恐ルベキハ日射病、熱中病ナリ而シテ其豫防法ノ最モ効驗アルモノハ行軍中規定ニ從ヒ適度ノ飲水ヲ爲サシムルニ在リ但之ガ爲メ長キ駐止ヲ爲スニ至ラザルヲ要ス豫メ乘馬將校等ヲ前遣シ住民ヲ促シ路側ニ水桶ヲ備ヘシムベシ而シテ小部隊ハ暫時駐止セシメ全隊ニ飲水セシムルコトヲ得ベシ然レドモ大部隊ニ在テハ前後ノ部隊

積著スルノ患アルヲ以テ此法ヲ用ヒ難シ故ニ行軍中ニ水ヲ得テ之ヲ飲ミ及其攜帶スル水筒ニ貯フルノ方法ニ據ラザル可ラズ此方法ハ命令ヲ以テ之ヲ行ハシムルハ縦列伍ノ間隔距離ヲ正シク保持スル能ハザルモ大ナル亂雜ニ至ルコトナカルベシ

二十八 軍隊湧水車ヲ携行スル時ハ之ヲ使用セシメ成ルベク生水ヲ用ヒシメザルヲ要ス

二十九 近寒ノ際シ最モ恐ルベキハ凍死、凍傷ナリ而シテ其豫防法ハ野外ニ於ケル休憩ヲ短クシ勉メテ行動ヲ爲サシメ且常ニ空腹ナラシメザルニ在リ爲シ得レバ休止ノ際湯茶ヲ給シ又被服濕潤スルトキハ成ルベキ速ニ之ヲ交換セシムベシ但身體濕潤ノ時若クハ大ニ凍痛ヲ感ズル時直接ニ火熱ニ觸レシム可ラズ又屋外ノ睡眠ト火酒ヲ飲用スルトヲ嚴禁シ且常ニ手足耳鼻就中足尖ヲ凍傷ニ罹ラシメザルニ注意スルヲ緊要トス

三十 背囊ヲ脱シテ別ニ運送スレバ著シク行軍ヲ容易ニシ從テ行軍力ヲ増加スベシ然レドモ之ガ爲メ行李ヲ増大ナラシムルガ故ニ非常ノ場合ニシテ且小部隊ナル時ニ於テノモ實施スルヲ得ベシ

三十一 強風殊ニ砂塵飛揚スル時及積雪ノ地ニ在テハ眼鏡若クハ眼簾ヲ使用スルヲ可トス

三十二 行軍隊形ニ就テハ人馬ノ疲勞ヲ省ク爲メ列伍ノ疎開ヲ要スト雖モ亦縱隊ノ長徑ヲシテ戰鬪ノ爲メ速ニ展開スルニ必要ナル限界ヲ超エシメザルヲ要ス

三十三 歩兵ノ行軍隊形ハ側面縱隊ヲ以テ最モ適當トス

三十四 行軍中ハ下士、缺伍ノ兵卒、上等看護卒等モ皆四人ヲ以テ一列ヲ作ルベシ喇叭手ノ位置ハ大隊長之ヲ定ム其中一人ノ喇叭手ヲ大隊ノ後尾(或ハ獨立中隊ノ後尾)ニ行進セシムベシ是レ道路ノ一側ヲ慮フスルコト殊ニ須要ナルトキハ「右」或ハ「左」ヲ吹奏セシメシガ爲メナリ此號音ヲ聞クトキハ行軍縱隊中ノ諸兵ハ之ニ從ヒ嚴ニ其一側ニ偏スベキモノトス

三十五 騎兵ノ行軍隊形ハ四伍縱隊若クハ二伍縱隊トス二伍縱隊ハ行進ニ便ナリト雖モ其隊ノ縱長極メテ大ナリ

三十六 中隊ノ後尾ニハ時宜ニ依リ歩兵ト同ク喇叭手一名ヲ行進セシムルコトアリ

三十七 砲兵ノ行軍縱隊ハ砲車縱隊トス
中隊長ハ定位ニ在ルヲ要セズ小隊長モ亦「休メ」ノ令アレバ其小隊中適宜ノ位置ニ在テ行

進ス砲車長及其他ノ諸長ハ其車(馬)ノ前後ニ在テ行進スルヲ得

三十八 砲手ハ警戒上妨ゲナケレバ之ヲ中隊ノ先頭ニ集メテ行進セシムルコトアリ

三十九 中隊ノ後尾ニハ歩兵ト同一ノ目的ヲ以テ喇叭手一名ヲ置クベシ

四十 行軍ノ急速ヲ要スル時ハ先ヅ徒歩兵ヲシテ勉メテ遲滞ナク行進セシムベシ而シテ乗馬者及車輛ヲシテ行軍縱隊ノ中間或ハ其先頭ニ在ラシメ以テ徒歩兵ノ運動ヲ妨礙セシメザルヲ要ス

四十一 時宜ニ依リ開進ヲ速ニスル爲メ行軍縱隊ヲ短縮スルヲ要スルコトアリ

四十二 大部隊ニ在テハ先頭部隊ハ其後方部隊ノ未ダ出發セザル前已ニ長キ路程ヲ經過スルヲ以テ全隊同時ニ休憩スルコトヲ得ズ故ニ各部隊ハ逐次ニ休憩ス即チ前方ノ部隊既ニ再ビ發進シタル後チ後方ノ部隊休憩ス

四十三 炊爨ハ行軍途中ニ於テ之ヲ爲サズ宿營地到着ノ後ニ於テスルヲ常トス

四十四 戰時ニ於テハ休日ヲ豫定スルコト能ハザルヲ以テ苟モ閑暇及機會ヲ得ルトキハ毎ニ之ヲ人馬ノ休養及被服裝具ノ修繕并ニ蹄鐵ノ改装等ニ應用スベシ而シテ休息久シキニ

百ノ時ハ此間ヲ以テ教育ヲ爲スベキモノトス

四十五 夜行軍ハ敵ニ關スル顧慮ト急行ヲ要スル時トニ因テ行フコトアリ又例外ニハ炎熱ノ時ニ於テ晝間ノ行軍ニ代フルコトアルベシ

四十六 夜行軍ヲ爲スニ當テハ暗夜ト雖モ其定メタル方向ヲ確實ニ保持スル爲メ必要ナル百般ノ規定ヲ爲スコトニ特別ニ注意ヲ爲ササル可ラズ即チ縱隊中ノ集結ヲ正シク保持シ爲シ得レバ縱隊ニ嚮導者ヲ附シ且後續部隊ヲシテ進路ヲ誤ラシメザル爲メ所要ノ地點ニ連絡兵ヲ殘置シ若クハ適宜ノ標識ヲ爲スコト等ニ注意スルヲ最良ノ方法トス其他道路ノ障礙ヲ除キ或ハ之ヲ迂回シ以テ兵卒疲勞ノ原因タル撞著ノ患ヲ除キ且休憩ハ成ルベク其時間ヲ短縮シ其回数ヲ増加スル等ノ處置ヲ必要トス又敵ノ近傍ニ在テハ靜肅ニ行進スルヲ以テ敵ヲ可ラザルコトトス

第二節 宿營

其一要領

一 宿營ハ戰鬪ノ準備容易ナル能ハズト雖モ風雨ヲ噴散シテ人馬ヲ休養シ需用品ノ補充ヲ

調理及器具 被服ノ補修ニ便ナルヲ以テ休養上ヨリ云ヘバ極メテ惡シキ宿營モ尙ホ

二 優レリトス故ニ苟モ戰鬪上ニ妨ゲナケレバ宿營ハ合營ヲ以テ最良トス

二 敵軍ニ接近セルカ或ハ數團隊ヲ稠密ニ集合スルヲ要スルガ若クハ其地方ニ住民ノ乏シ

キガ爲メ合營ヲ爲ス能ハザル時ハ村落露營ヲ爲スベシ此宿營ハ戰鬪準備ニ關シテハ殆ド

露營ニ同ジキモ軍隊休養上ニ於テハ尙ホ之ニ優レリトス

三 敵ニ觸接シ夜間尙ホ戰鬪上ノ顧慮ヨリ一定ノ地域ニ位置セザルヲ得ザル時或ハ合營

スベキ村落ニ乏シク他ニ方法ナキ時ハ露營ヲ爲スモノトス

四 宿營ノ内務及其外部警戒ニ關スル方法ハ凡テ其時ノ形勢ニ從フモノトス凡ソ宿營ハ或

ハ敵ト遠隔シテ單簡ナル行軍合營ヲ爲シ或ハ大部隊相密集シ其周圍ヲ警戒スル所ノ村落

露營ヲ爲シ又戰鬪ノ前後其占據地ニ露營ヲ爲ス等其種類異ナルガ故ニ其勤務及警戒ノ方

法モ亦大ニ差異アルモノトス

其二 合營

一 毫モ敵ト觸接スベキ虞ナキ時ハ軍隊ヲ休養シ需要品ノ供給ニ便ナル如ク合營スルヲ緊

要トス而シテ其舍營地ノ廣狹ハ行軍縱隊ノ長徑ト再ビ集合ニ要スル時間トニ應ジ之ニ畫定スベキモノニシテ其配宿法ハ軍隊區分アル時ハ之ニ從ヒ然ラザレバ勉メテ建制部隊ヲ以テスルヲ可トス然レドモ諸兵種混合シキ其地ノ廣又ハ之ニ代用シ得ベキ納屋等ヲ使用スルコトニ注意スベシ

二 舍營ハ時ノ形勢ノ許ス限リ豫メ準備ヲ爲スベシ大部隊ノ舍營ニ在テハ設營隊ヲ先發セシメ地方吏ト協議シ之ガ準備ヲ爲サシムベシ又行軍中ニ於テ各部隊ニ舍營地ノ配當ヲ命ジ得ル時ハ設營隊ヲ前進スベシ(必要ノ場合ニ在テハ步兵隊モ亦乘馬將校ヲ前進ス)

三 敵ノ近傍ニ在テハ直接警戒ノ爲メ特ニ外衛兵ヲ置テ緊要トス此外衛兵ノ兵力及配置ハ危險ノ度ト地形トニ應ジテ定ムルモノトス

四 大ナル舍營地若クハ敵ノ近傍ニ在テ須要ナルトキハ若干部隊ヲシテ嚴肅ナル戰備ヲ保持セシム然ルトキハ此部隊ハ適當ナル家屋ニ相合シテ緊急舍營ヲ爲ス

五 緊急舍營ハ勉メテ建制部隊毎ニ一家屋ニ舍營シ服裝ヲ整へ裝具ヲ身邊ニ置テ眠臥シ凡テ窓戸ヲ開キ各家屋ニ少クモ兵卒一名(點燈シテ)警戒ヲ爲ス馬匹モ亦此要領ニ從ヒ整頓

シ在ルヲ要ス

六 各舍營地ニ於テ靜肅及軍紀ヲ維持スル爲メ一ノ風紀衛兵ヲ設置ス其人員ハ要スル哨所ノ數(哨所ノ數ヲ節減スル爲メ數部隊ノ行季ヲ一地ニ集團スルヲ得)ニ應ジテ之ヲ定メ而シテ之ニ一名ノ喇叭手ヲ屬ス

七 警報ノ時ハ非常號音ヲ吹奏ス此號音ハ高級古參ノ將校或ハ舍營司令官之ヲ命ズルモノトス若シ突然ノ敵襲ニ際シ猶豫セバ大ナル危險ニ陥ルベキ時ハ各衛兵及各將校、身ヲ以テ責ニ任ジ速ニ非常號音ヲ吹奏セシムルノ義務ヲ有ス又一部隊ヲ速ニ使用シ得ンガ爲メ靜肅ナル警報ヲ行フコトアリ然ルトキハ此部隊ハ號音ヲ用ヒズシテ急速ニ集合スベシ之ガ爲メニハ豫メ其準備ヲ爲シ置クヲ要ス

八 警報アル時下士卒ハ武裝ヲ整備シ先ヅ小隊(分隊)砲車毎ニ集合シ然ル後歩兵ハ速ニ其中隊ノ集合場ニ集合シ更ニ其緊急集合場ニ赴クカ若クハ各隊速ニ豫メ指示セラレタル地點ヲ守備ス騎兵ハ厩ニ、砲兵ハ其勤務ノ區分ニ從ヒ先ヅ速ニ砲廠若クハ厩ニ集リテ武裝ヲ整備シ後更ニ砲廠ニ集合シ衛兵ハ舍營司令官ヨリ受ケタル命令ニ從テ動作ス

九 舍營司令官ハ豫メ警報(殊ニ夜間ノ爲メ)ニ際シ騎兵砲兵及行季ノ爲スベキ動作ヲ特ニ規定スベシ

十 敵兵急ニ舍營内ニ侵襲シ之ガ爲メ其屬スル部隊ニ集合スル能ハザル者ハ各々其處ニ於テ現在ノ人員相協力シテ防禦スベシ

十一 敵ノ近傍ニ獨立シテ舍營スル騎兵ハ専ラ搜索ヲ以テ急襲ヲ警戒シ又火器ヲ利用スルニトヲ忘ル可ラズ故ニ此騎兵ハ時ノ景況ニ從ヒ徒歩ノ外衛兵ヲ配置スルコトアリ然ルトキハ其衛兵ノ馬匹ハ相合シテ宿セシム可シ

其三 村落露營

一 各兵種ヨリ成ル大部隊ヲシテ村落露營ヲ爲サシムル時ハ各隊ヲ相隣接セル數村落ニ分配ス其方法ハ舍營ノ原則ニ從フモノトス但必要ニ應ジ露營司令官ハ家屋内ニ入ラシメ得ベキ概略ノ部隊數ヲ示スモノトス而シテ何隊ヲ家屋内ニ宿セシメ何隊ヲ庭内若クハ其附近ノ畑地或ハ原野ニ露營セシムベキカハ各隊ノ便宜ニ任スベシ然レドモ如何ナル場合ニ在テモ街路ニハ決シテ露營セシム可ラズ

二 凡テ村落内ニ宿營セシ者ハ其警戒法及内部ノ勤務ハ舍營ニ準シテ之ヲ規定シ近ク村落外ニ露營スル部隊ハ露營ノ爲メ定メタル方法ニ從フベシ

其四 露營

(一) 通過

一 凡ソ露營ハ其兵員ノ寡少ナルト一處ニ露營セラル。ノ度少キトニ從ヒ地形ニ適應セシムルノ便ヲ得ル益々大ナルモノトス之ニ反シ一ノ露營地ニ集合スル兵員ノ衆多ナルニ從テ地形ニ適應セシムルコト益々困難ナルモノナリ而シテ終リノ場合ニ於テハ各隊露營トノ境界ヲ判然畫定シ土地ノ適否、障礙、風向等ニ深ク顧慮スルコトナク露營ノ設備即チ又銃線、休宿地、炊事場、廁圍等ノ位置ハ下ニ掲グル定期ヲ成ルベク嚴守スルヲ要ス

二 各露營地ハ通常露營司令官先行シテ豫メ偵察撰定ス凡ソ露營ハ戰術上ノ要旨ト軍隊ノ便利トニ適合セザル可ラズ而シテ戰術上ノ要旨ハ速ニ開進若クハ出發シ得ル如ク露營ノ位置ト其形狀トヲ撰定スルニ在リ

三 風紀衛兵ハ専ラ軍紀ノ事ニ顧慮ス此衛兵ハ各隊(歩、工兵、大隊、騎兵ハ聯(大)隊、

砲兵(中隊)ヨリ其隊長ノ規定ヲ以テ出スモノニシテ其兵員ハ所要ノ哨兵數ニ從フモノトシ其哨兵ハ通常隊長ノ所在及銃前(軍旗ノ歩哨ヲ兼ヌ)并ビニ行李ノ位置ニ各一ヶ所トス

四 指定セラレタル地ニ露營ヲ設備シ炊爨、汲水等ニ關スル事件ハ各隊自ラ之ヲ規定スベシ但露營司令官ヨリ特ニ規定セラレタルモノハ此限ニ在ラズ

(二) 露營中諸兵ノ動作

一 露營中下士兵卒ハ露營ノ設備及雜役ニ從事スル間、上官ニ對シ敬禮ヲ行フコトナシ故ニ若シ上官ト言フ交フル時ハ唯直立若クハ靜止シテ之ニ答フベシ休憩中ニ在ル下士兵卒モ亦然リ

二 露營ニ於テ軍隊ヲ召集スルハ唯特別ノ命令アル時ノミ施行ス此時將校ハ刀ヲ帶ブ下士兵卒ハ武器ヲ携フルコトナシ而シテ其召集若クハ點呼及勤務ニ出ヅル爲メ整列スルハ集會場若クハ露營前面ノ地ニ於テスルモノトス

(三) 警報

一 突然警報アル時(不意ニ敵襲ヲ受ケル時等)ハ步兵工兵ハ各自速ニ背囊ヲ負ヒ又銃ノ側ニ到ルベシ但命令アルニ非ザレバ銃ヲ解ク可ラズ

二 騎兵ニ在テハ速ニ鞍ヲ裝シ武裝ヲ整ヘテ乘馬シ中隊ハ集會場ニ集ルベシ

三 砲兵ハ鞍ヲ裝シ背囊ヲ車輛ニ附著シ或ハ負ヒ更ニ命令ナキモ野砲兵及野戰重砲兵ニ在テハ緊駕シ山砲兵ニ在テハ駄載若クハ緊駕スベシ輜重各縦列モ亦之ニ準ズ

四 凡テ行李鞍駄馬ハ之ニ裝具シテ緊駕若クハ駄載スベシ

五 外衛兵ハ更ニ命令ノ下ル迄其位置ヲ固守シ要スレバ殊死シテ敵ヲ逆襲スルコトアリ

六 風紀衛兵ハ軍隊ノ遺セシ材料ヲ監視ス若シ突然出發スル時ニ當テハ此材料運搬ノ準備整ヒタル後始メテ軍隊ニ跟隨スベシ

(四) 出發

一 出發ノ時刻ハ豫メ命令スルヲ例トス此場合ニ在テハ出發ノ直前ニ於テ盡ク火ヲ滅シ衛兵(敵ニ對シ須要スル警戒ハ之ヲ保存シ)ハ各々其隊ニ復歸ス而シテ軍隊ハ出發ノ準備ヲ爲ス

▲三十八
 一 行李輓駄馬ハ各自出發ノ直前ニ於テ緊駕若クハ駄載シ更ニ出發ノ命令下ル迄其地ニ駐止ス

明治四十一年四月二日印刷
 明治四十一年四月七日發行

正價金卅五錢

編纂者 武藤鐵之助

大阪市南區心齋橋筋一丁目五番地

發行者 名倉龜楠

大阪市南區末吉橋通四丁目十六番地

印刷者 井下幸三郎

大阪市南區心齋橋南詰東入

發賣者 名倉昭文館

大阪市南區心齋橋南詰東入

製本發行所 名倉昭文館

電話東區千四百〇五番
 郵便振替貯金口座第四千〇參拾五番



(附與要須兵步)

橋本三郎波舞 吉田松茂速記
男軍人愉快踊 菊判半裁形類美本
附女子手藝指南 圖畫十數幅入
正價金八錢 郵税貳錢

申村 卷編 大新版
自來數學一週間速成 全二冊 洋綴類美本
紙頁三百頁餘
正價金廿五錢 郵税六錢

文明の競争は商業にあり其商戦に勝利を得るには算術を知らねばならぬ世に算術の書澤あるが皆幾らか算術の心得が新い人には見ても分らぬ本書は其れと違ひ文字さへ讀めば加減乗除から開平開立迄も直に出来る様に詳しく書てあるのですから商業家は勿論誰にでも是非必用な本であり升

藤井 銀峯編
新案商業新用文 洋綴類美本全一冊
正價金拾五錢 郵税四錢

頭目次○諸商家符牒集○羅馬數字○英語數字法○商業會話○郵便規則小包郵便規則○登録税法○専賣特許願○登記簿○贈答書文例○願書書式○營業税法○電信文等記載したれば商人たる者は必用の良書なり

宮城千代子編
實用裁縫手ほどき 洋綴類美製本紙頁上裁
全一冊紙頁三百二十頁
附女子手藝指南
正價金廿五錢 郵税六錢

本書は宮城千代子女史が多年苦心の上に苦心を重ね婦女子に至極分り易き機關圖二百八十有餘も加へ詳しく説明し尙骨紋紐止等は一々彩色して糸の縫ひ方迄示したれば裁縫を學ぶには最良の本です

粹空に編れし遊藝の新版御披露
隊長料の大愉快 四六版形種彩色美人目
紙質上紙頁三百五十頁 既三十版發行
正價金貳錢 郵税六錢

本書目次○大阪で有名なる落語家井に藝妓の新作遊藝花柳流新歌○外人失物者等とモルガンの流行歌○雪中行軍凍死○流○最新流行何た〜ヨ節○圓若十八番の改良注意節○節○隅田川○新編ぶし○其他落語家新作○新吉原節○博多節○有難ぶし○申上ます○何だい法界○の節○ぶし○雨の降るのに○あきれる子○水更津甚句○四季ぶし○おつたは○新博多○石川屋○びこびよこ○べんかいな○らんから節○トコサイ〜○新さん節○レール節○程のよ〜節○名

普通 散史編
祝文の葉 四六版形全一冊
今般新刊發刊祝文トシテ 特別正價金拾貳錢 郵税四錢
未來の大政治家實業家教育家さつては玉葉葉に爲らんとせらるゝ諸君は祝文を作る事能く爲へてお置きに爲らなければならぬ何につけ彼につけ祝文は必用な者ありませんとせんて祝文の書籍が随分澤山に出版して居りますが皆高尚な者ばつかり斯ふ云ふては失禮ですが初學の御方には適しません乃で弊館が今般本書出版いたしましたのですチト自慢かも知れませんが本書に依て祝文の作り方を習われた爲らば易く作られる事は弊館の保證する處であります請ふ請ふより證據先づ一本を坐右に置き給へ、莫大の利益です

手保野昆陽編
新ばがき用文 三十版印刷四六版形
紙質上紙全一冊
正價金拾五錢 郵税四錢

卷中略目○變体いろは○英字いろは○府縣名郡名○國づくし○郵便規則小包郵便○名字鑑し○丸の聲○名頭づくし○願書書式○證書文例等必用事數種あり

篠田 正作 著
手紙の獨稽古 四六版洋綴全一冊
正價金拾五錢郵税四錢

坊編
考物一萬題 四六版類美本全一冊
紙頁二百五十頁
正價金貳拾錢 郵税六錢

本書は家庭教育の遊戯として最良のものである
本書は紳士淑女の娯樂的好適なる讀物である
本書は御土産物として學生の悦ぶものである
本書は秋の夜程の朝の消閑に適したる物である
本書は清治出生生場で徒然の誌となるのである
本書はこれ程面白くて夫れで知識が開發される

所節○ひやく節○ノエ節○アノチソカチ○落陽節○職士の新作活潑なる愉快節○相撲甚句○名古屋ぢんぐ○大津節○伊豫節○とちりとしん○追分○琉球ぶし○出雲節○新作二上り新内○浮世節○あんな〜○縁かゝる○古今有名なる宗匠并に藝妓の新作節々選○意氣な端唄○座敷さわき歌○座敷小うた○意氣天狗新作の變歌○清元○江戸歌○地歌○新内○源氏節○佐和節○滑稽上りり○やんれぶし○酒座遊藝遊藝○壯士萬節○二重加○劍舞吟詩○巻はなし○ト口はなし○あはだら紅○芝居の物まね○謎がけ○考物○輕口問答○地口合○座敷手品○座敷奇術の遊○筆の打方圖入○西洋骨牌使ひ方○八の秘法等其外數百種の流行歌并に遊藝等を澤山集めたる實に偷閑を極むる料本なれば一本購求して其味を知りたまへ

大阪心齋橋南詰
名倉昭文館

新版廣告

武藤 謙城 編

軍人の手紙

洋綴四六版類美本全一冊
紙質上質紙員三百餘頁
正價金廿五錢 郵税六錢

卷中鑑頭目次○御勅諭○讀法○一年志願兵心得○在郷軍人心得○海軍々人心得○入營者心得○徵兵令大要○軍事郵便規則○軍人願届書式○英語いろは○府縣名郡名○陸軍常備團隊制備○陸軍管區表○海軍管區表○軍艦表○陸軍里程表○恩給法并ニ恩給拜受ノ手續キ等世間ニアリフレナル軍人用文トハ余程達トマス

東京法學院大學部 村上逸進著

註現行徵兵規則大全

洋綴四六版類美本全一冊紙員二百頁餘
正價金廿錢 郵税四錢

卷中略目○徵兵令○徵兵事務條例○全補則○在郷軍人及補充

兵寄留地ヨリ召募ニ應セントスル者取扱方等外寄留地ニ於テ身體検査ヲ受ケント出願セル者ノ取扱方○現行砲兵輸卒及現役重輸卒疾病犯罪ノ爲メ入營シテ者取扱方○陸軍六週間現役兵條例○陸軍一年志願兵條例○試補及判任官見習並非職ノ官二一年志願兵服役方○陸軍服役條例○海軍志願兵條例○海軍志願兵徵募細則○新國民軍條例等ナリ

赤松登美子女史著

お手紙細君の腕前

洋綴四六版類美本全一冊
紙質上質紙員三百廿頁
正價金廿五錢 郵税六錢

本書は料理通で有名な赤松登美子女史が多年苦心して編纂せられたるを弊館今般乞ひ受けて刊行したる者である其内容は和洋料理の最も簡便にして實用に適するもの及び春夏秋冬の期候に應じたる献立調理法を詳記し且つ其行文は平易を旨とし總振り假名を附し一見素人にてても何種の料理をなすも容易ならしめるので家事厨房の監督整理に力を盡さるゝ婦女達には必ず座右に備へ置ねばならぬ者である

宇保野昆陽編

手紙と證文

洋綴類美本四六版全一冊紙員二百頁餘
市町村役場ニ於ケル願届書式
正價金拾五錢 郵税四錢

橋本三郎漢舞 吉田松茂通記
海軍人愉快踊 菊川中裁形類美本
附女子手藝指南 附女子手藝指南
正價金八錢 郵税貳錢

申村巷編 大新版
應用數學一週間速成 全二冊 洋綴類美本
紙頁三百頁餘
正價金廿五錢 郵税六錢

文明の競争は商業にあり其商戦に勝利を得るには算術を知らねばならぬ世に算術の書澤あるが皆幾らか算術の心得が新しい人には見ても分らぬ本書は其れと違ひ文字さへ讀めば加減乗除から開平開立迄も直に出来る様に詳しく書てあるのだから商業家は勿論誰にでも是非必用な本であり升

新案商業新用文 洋綴類美本全一冊
正價金拾五錢 郵税四錢

歌頭目次○諸商家符牒集○羅馬數字○英語綴字法○商業會話○郵便規則小包郵便規則○登録税法○専賣特許願○登記法○贈禮書文例○願書式○營業税法○電信文等記載したれば商人たる者は必用の良書なり

宮城千代子編
實用裁縫手ほどき 洋綴類美製本紙頁上級
全一冊紙頁三百二十頁
附女子手藝指南
正價金廿五錢 郵税六錢

本書は宮城千代子女史が多年苦心の上に苦心を重ね婦女子に至極分り易き裁縫圖二百八十有餘も加へ詳しく説明し尙背紋紐止等は一々彩色して糸の縫ひ方迄示したれば裁縫を學ぶには最良の本です

粹々に編れし遊藝の新版御披露
隊長料の大愉快 四六版形類彩色美人目
紙綴上級紙頁三百五十頁 既二千版發行
正價廿貳錢 郵税六錢

本書略目○大阪で有名な落語家井に藝妓の新作新花柳流新歌○外人失物者雪とモルガンの流行歌○雪中行軍凍死○餘○最新流行何た〜ヨ節○團扇十八番の改良注意節○餘○び○隅田川○新編ぶし○其他落語家新作○新吉原節○博多節○有難ぶし○電上ます○何だい法界○さのさ節○雪ぶし○雨の降るのは○あきれれる子○水更津甚句○四季ぶし○おつたね○新博多○石川屋○びこびよこ○べんかいた○らんから節○トゴサイ〜○新ざん節○レール節○程のよ〜節○名

所節○ひやく〜節○ノ〜節○アノ〜節○カチノ〜節○海賊節○騎士の新作活劇なる愉快節○相撲甚句○名古屋ちんく○大津節○伊豫節○とちりりとん○追分○琉球ぶし○出雲節○新作二上り新内○浮世節○あんな〜○線かいな○古今有名なる宗匠井に藝妓の新作節々選○意氣な端唄○座敷さわぎ歌○座敷小うた○意氣天狗新作の變歌○清元○江戸歌○地歌○新内○源氏節○佐和節○滑稽上りり○やんれぶし○酒席座敷遊藝○壯士節○二上り加○劍舞時詩○遊ばなし○一ト口はなし○あはだら紅○芝居の物まね○謎がけ○考物○輕口問答○地口合○座敷手品○座敷奇術の遊○拳の打方圖入○西洋骨牌使ひ方○八の秘法等其外數百種の流行歌共に遊藝等を澤山集めたる實に愉快を極むる様本なれば一本購求して其味を知りたまへ

考物一萬題 四六版類美本全一冊
紙頁二百五十頁
挿圖數圖入 正價金貳拾錢 郵税六錢

本書は家庭教育の遊戯として最良のものである
本書は利士少女の娯樂的好適なる讀物である
本書は御土産物として學生の悦ぶものである
本書は秋の夜響の朝の消閑に適したるものである
本書は活潑出生生場で徒然の誌となるのである
本書はこれ程面白くて夫れで知識が開發される

祝文の葉 四六版形全一冊
今般新刊發刊祝文トシテ 特別正價金拾貳錢 郵税四錢
未來の大政治家實業家教育家さつては工業家に爲らんとしてらるゝ諸君は祝文を作る事を能く爲へてお置きに爲んければならん例につけ従につけ祝文は必用な者ほありませんテ祝文の書籍が随分澤山に出版して居りますが皆高尙な者ばつかりで斯ふ云ふては失禮ですが初學の御方には適しません乃で弊館が今般本書出版いたしましたのですチト自慢かも知れませんが本書に依て祝文の作り方を習われたら易く作られる事は弊館の保証する處であります請ふ請ふより謹んで先づ一本を坐右に置き給へ莫大の秘益です

新ばがき用文 三十版即刷四六版形
紙頁上級全一冊
正價拾五錢 郵税四錢

卷中略目○總体いろは○英字いろは○府縣名郡名○國づくし○郵便規則小包郵便○名詞彙し○九々の聲○名頭づくし○願書式○證書文例等必用事數種あり

手紙の獨稽古 四六版洋綴全一冊
正價金拾五錢郵税四錢

篠田正作著

宮城千代子編 十五版印刷
女子新用文

四六版形類美製紙
質上質紙頁二百頁

附小倉百人一首

正價金拾五錢

郵稅四錢

卷中略目○女今川○源氏五十四帖○三十六歌仙○婦女庭訓○
衣裳字つくし○絹布字つくし○月の異名○五節句略解○七夕
の新歌○今様盤つくし○十二月屏風の和歌○烈女三十六字撰
○自他の名稱

紅葉女史著

四六版形全一冊
正價金拾五錢 郵稅四錢

宮野異芳編

はがき新用文 四六版洋綴全一冊
正價金七錢 郵稅四錢

女子新用文 四六版洋綴全一冊
附年中毎日慈菜の見立并に漬物追加減
正價金七錢 郵稅四錢

著者 書名 正價 郵稅

久松定基 ◎柔術極秘圖解 廿五錢 四錢

城南居士 ◎劍舞詩集 拾錢 二錢

四

篠田正作 ◎算術獨習全書 廿五錢 六錢

篠田適堂 ◎算盤獨稽古 拾五錢 六錢

嘲世庵 ◎稽閣魔の判決 拾五錢 四錢

岡崎真定 ◎將棊獨習自在 拾五錢 二錢

如雲居士 ◎欣舞獨習指南 拾五錢 四錢

宇保野島陽 ◎學藝全書 拾貳錢 四錢

如雲居士 ◎劍舞一萬題 廿五錢 六錢

如雲居士 ◎新劍舞博士 拾五錢 四錢

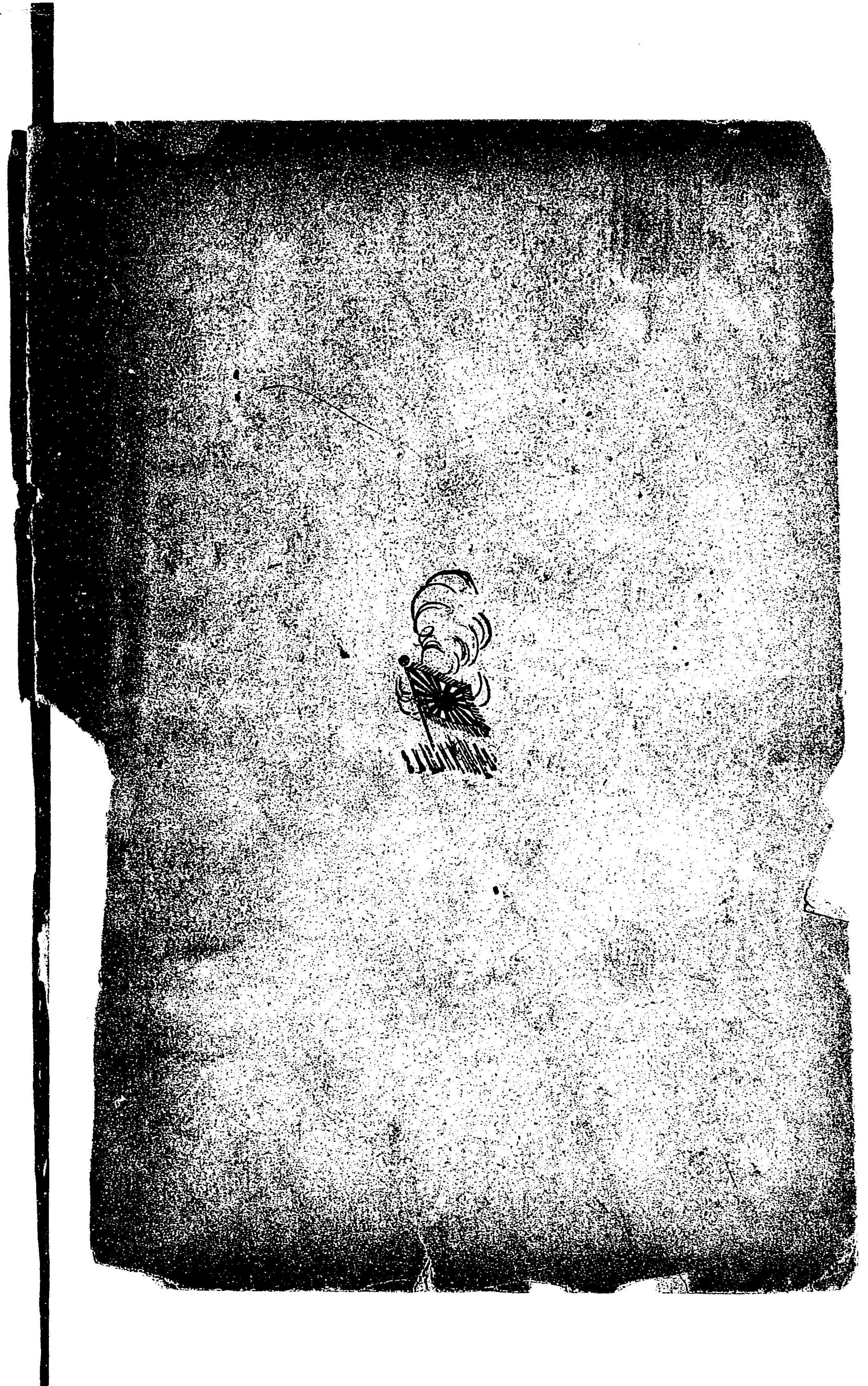
源一可齋 ◎男女運命獨判斷 拾五錢 四錢

陸陽堂主人 ◎吉凶獨判斷 拾五錢 四錢

井之口松之助 ◎英語獨稽古 七錢 四錢

◎英語早まなび 七錢 四錢

◎弘法大師行狀記 拾八錢 四錢



052150-000-9

特15-136

歩兵須要(改正)

護国会/編

M41

BFC-0178

